文化財調査報告書

平成13年度

前橋市教育委員会

第32集

目 次

序

Ⅰ　文化財調査委員による調査 ---------- 1

　1　宝禅寺調査 ---------- 1

　2　薬師三尊立像 ---------- 3

　3　樹木調査 ---------- 3

Ⅱ　文化財調査 ---------- 4

　1　刀剣の調査（第３年次） ---------- 4

Ⅲ　新登録文化財紹介 ---------- 8

Ⅳ　文化財保護事業 ---------- 9

　1　保護管理運営事業 ---------- 9

　2　整備事業 ---------- １１

　3　普及事業 ---------- １２

　4　第３６回全国史跡整備市町村協議会大会 ---------- １５

　5　埋蔵文化財発掘調査事業 ---------- １６

　6　遺跡台帳整備事業 ---------- ２５

　7　大室公園史跡整備事業 ---------- ２６

あとがき

序

２１世紀の文化芸術の振興に向けて、「文化芸術振興基本法」が公布されたことは、文化を大切にする社会を構築する第一歩が力強く踏み出されたことを意味するものと考えます。これまで、日本人は「ものの豊かさ」を追い求め、経済的豊かさを享受してきましたが、これからは、「心の豊かさ」を感じられる質の高い生活が送れる社会の実現が求められています。この「心の豊かさ」を感じさせてくれるものが文化であり、そのひとつとして文化財があげられます。「文化芸術振興基本法」の施策には、文化財の保存及び活用が謳われており、文化財にかかる比重は今まで以上に高まっています。

このような時代の要請に基づき、本市の文化財保護行政を進めていますが、平成１３年度は、本市にとって画期的な年でした。第３６回全国市町村史跡整備協議会大会が前橋市を中心に開催され、大室古墳群をはじめとする史跡整備状況を、全国に向けて情報発信する絶好の機会が得られました。現在、整備されつつある大室古墳群は、前橋市民をはじめとする多くの方々に、「心の豊かさ」を感じさせてくれる史跡であり、さまざまな学習の場を提供してくれる貴重な文化財に生まれ変わろうとしています。大室４古墳のうち、前二子古墳の石室部分を残し、整備が終了し公開されています。それぞれが違った特色を見せながら、保存と活用が図られ、まさに、文化財と関わりのもてる環境を具現化したものと言えます。

今後とも、文化芸術の振興に、文化財が大きな役割を果たすよう努力していく所存でおりますので、市民の皆様方のご理解・ご協力をお願いいたします。

最後に、本市の文化財保護行政を進めるにあたり、ご指導ご協力いただいた関係各位、並びに諸機関に深く感謝申し上げますとともに、本書が文化財保護の一層の推進のために活用されることを強く願ってやみません。

平成１４年９月

前橋市教育委員会

教育長　桜井　直紀

Ⅰ　文化財調査委員による調査

1　宝禅寺調査

宝禅寺は前橋市上泉町 1277-1 に所在する天台宗の寺で、神護山無量壽院と号し、阿弥陀如来をまつっている。寺には、市指定重要文化財「宝禅寺異型板碑」がある。平成 13 年 10 月 24 日、前橋市文化財調査委員により、本寺の什物等の悉皆調査を実施した。調査の概要は以下のとおりである。

宝　禅　寺　什　物　等　目　録

ｶｰﾄﾞ番号	種　　別　（名　称）	材　質	法　　量　ｃｍ	備　　考
1	阿弥陀如来立像	木製	総高　５１ 像高　４２．５ 幅　１５ 奥行　１１	中世～ 江戸時代初期。
2	菩薩坐像	木製	像高　２３ 幅　１９．５ 奥行　１６	造りは平安様式。江戸時代。
3	宇賀神像	木製	像高　１２ 幅　１０	蛇を形どり、顔の部分が人の顔で表現されている。高さ１７ｃｍ、幅１５ｃｍの入れ物がある。江戸時代後期。
4	妙見大菩薩像		総高　２４ 像高　１７ 幅　１２ 奥行　７	厨子のなかに納められている。明治時代。
5	妙見大菩薩		総高　１７ 像高　９．５ 幅　１２ 奥行　９	明治時代。
6	聖徳太子像		像高　２２ 幅　１５ 奥行　８	明治時代。
7	舎利容器	木製 水晶	高さ　８．５ 幅　４．５ 奥行　１	舎利が５粒（肉舎利３、骨舎利２）。 江戸時代末。
8	舎利塔	木製	高さ　１４ 幅　７．５ 奥行　７．５	近代（明治～大正時代）。
9	念仏鉦	青銅製	総高　１０．２ 径　２３．６	（銘文） 慶應三年丁卯年 二月十九日求之 上泉村　東講中
１０	外居（ほかい）	木製	総高　４２ 外径　３７．５ 内径　３３	江戸時代。 脚が外へ反っている。
１１	釈迦如来図	紙本	縦　１１２ 横　４３．８	明治時代。釈迦が修行を終えて、山から出てくる姿を描いたもの。空水拝寫。軸装。
１２	達磨図	紙本	縦　１３７ 横　３３	近代。宇斎画。 軸装。
１３	達磨図	絹本	縦　１０２ 横　３９	江戸時代以降。直指人心見」性成仏」七転八起」と書かれている。 雲雷左季寫。 軸装。
１４	達磨図	絹本	縦　１１２．５ 横　３６	近世末～明治時代末。 軸装。
１５	達磨図	紙本 墨画	縦　１１９．５ 横　５３	明治時代以降。墨画。康陵画。 軸装。
１６	達磨図	紙本	縦　１２６ 横　２７	近世末～明治期。 軸装。
１７	興山宗法観世音菩薩像之図	絹本	縦　９８．５ 横　３６	大正３年。興山併越画。 軸装。

１８	観音像之図	絹本	縦　３７ 横　３３	慶應元年（江戸時代末）。天海道人画。 軸装。
１９	観音像之図	紙本	縦　１１５．３ 横　３２．２	明治時代。関山奇峰画。お経（観音経）の書き連ねた線で描かれている。軸装。
２０	十六羅漢図	絹本 著色	縦　５１ 横　１１５	近代。忠日謹寫。 軸装。
２１	祖師像之図	絹本 著色	縦　３８ 横　３２．５	近代（明治以降）。著色。 軸装。
２２	角大師（元三大師良源）之図	絹本	縦　４３ 横　２５	近世末。明治２５年修復。 軸装。
２３	聖徳太子孝養図		縦　１１５ 横　４２	明治時代。月香謹写。 軸装。
２４	書「至誠通天」	紙本 墨書	縦　１３７．５ 横　３４．４	近世。橋本正左。
２５	書「山寿以太古」	紙本 墨書	縦　１３４ 横　３９	近世～近代。龍眠。
２６	書「天神地祇八百萬神」	紙本 墨書	縦　１３１ 横　１９	明治時代。堀口藍園。
２７	書「和家清亭」	紙本 墨書	縦　１０９．５ 横　３０．５	近世。官休庵。
２８	書「人間万事塞翁馬」	紙本 墨書	縦　１３８ 横　５０	明治時代。比伝男。
２９	七言絶句漢詩軸	紙本 墨書	縦　１２９ 横　４６	明治３２年１０月。華族二位子爵交野時萬の添書きがある。
３０	七言絶句漢詩軸	紙本 墨書	縦　１３０ 横　５６	文化１２年。月亭。
３１	五言絶句漢詩軸	紙本 墨書	縦　１１９ 横　２９．５	近代（昭和）。善光寺管主　天□□。
３２	漢詩軸	紙本 墨書	縦　１３６ 横　３４	明治時代。南州。
３３	紺紙　金泥俳句軸	紙本	縦　１２２ 横　２７．５	幕末～明治時代。陶銭。□を濡らす 雪乃初卯かな。
３４	山水之図	絹本	縦 横	田野大坂之人小齊先生筆山水。 鳥棲地上樹僧叩」月下門」重陽」。
３５	鷹之繪	紙本	縦　１３５ 横　５４	明治時代。群雀堂。鷹一羽が木にとまっている姿を描いたもの。
３６	歌人肖像画	絹本	縦　１０７ 横　４０．５	江戸時代。天齊。
３７	栗之繪	紙本	縦　１０３ 横　２２	近代（昭和）。初日貂太郎描之併古詩私譯。
３８	版木　　６点	木製		・火災盗難劔難除守護。　・妙見－北斗星と北極星。 ・奉修佛神尊護摩供諸願成就祈攸など６点。
３９	板碑	石製	長　７９ 上幅　１２．５ 下幅　１５．０	キリーク（蓮台付）。建武三（あるいは五）年六月　日。（南北朝時代）。
４０	薬師堂棟札	木製	長　９８ 幅　２４．５	寛政６年（江戸時代）。 銘文は表外に記す。

※棟札銘文

＜表＞

戒行文殊師利菩薩　　組頭　長左衛門
戒行師觀世音菩薩　　別當　伽羅陀山　組頭　惣　八
（梵字）奉再建立薬師堂一宇施入喜捨　　組頭　善　蔵
助力志主現當兩益如意清足　　組頭　音　七
村中繁昌祈攸　敬白　　名主　平右衛門
道師彌勒慈尊　　現主寂雲　　三右衛門
惣戒師大覺世尊　　四月大吉日

<裏>　日天師梵天王　聖主天中天　持國天王　艮場山　大前田村
迦陵頻伽聲　増長天王　本寺　大工　吉治郎知儀
恵雲院　賢□□亮　同　丑太郎

（梵字）奉新造立薬師堂舎一宇衆病悉除身安楽國家安全當邑諸願成辨五穀豊饒

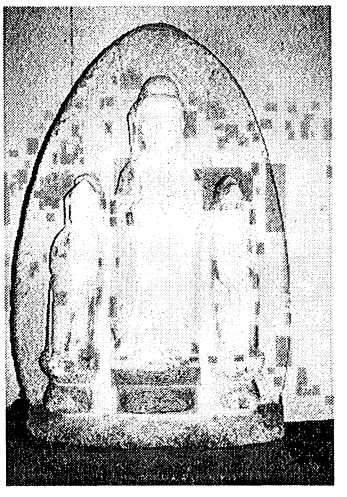
月天子帝釈天王　哀愍衆生者　廣目天王　別　當　伽羅陀山　組頭　長左衛門
我等奉敬禮　多聞天王　寛政六甲寅歳四月吉日　地蔵院　組頭　惣　八
現主寂雲　組頭　善　蔵
組頭　音　七
名主　平右衛門
三右衛門

2　薬師三尊立像調査

亀泉町の薬師堂（亀泉町 309）に安置されている薬師三尊立像の調査を、平成 13 年 10 月 24 日に実施した。調査の概要は以下のとおりである。

時代　南北朝

法量　総高　９４ｃｍ　総幅　６６ｃｍ　奥行　２５ｃｍ
主尊　薬師如来立像高　６０ｃｍ　肩幅　１６．５ｃｍ
脇侍　日光菩薩像高　３９ｃｍ　肩幅　９．５ｃｍ
脇侍　月光菩薩像高　３９．５ｃｍ　肩幅　９．５ｃｍ



概要　この石仏は、安山岩製の半肉彫りされた薬師三尊立像である。主尊は左手に薬壺を持ち、右手は施無畏印の印相を結び、蓮坐上に立つ。脇侍は、日光菩薩・月光菩薩で蓮坐上に立っており、一光三尊の姿を現している。

地域の人々は、この薬師像に患部と同じ部分をおしろいで、化粧して病気平癒の願をかけ、無事平癒すると再び患部だった部分におしろいを塗って感謝した。このため、人々から「化粧薬師」と呼ばれている。

3　樹木調査

市内にある貴重な樹木・巨樹などについて基礎的なデータを整備するため、平成 13 年 10 月 25 日に調査を実施した。調査結果の概要は以下のとおりである。

調　査　結　果　概　要　一　覧

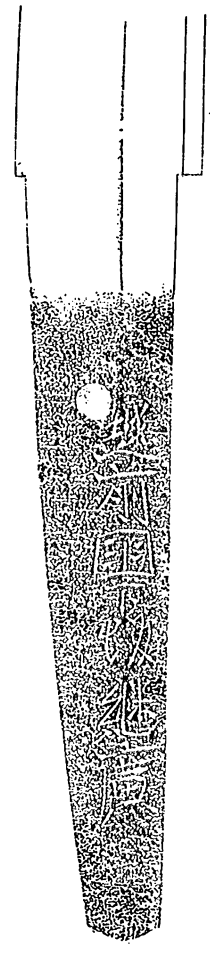
NO.	名　称（通　称）	所　在　地	樹　高	目通り周	樹　齢	備　考
1	堤町桐生家のタラヨウ	堤町 197	15.0 m	1.5 m	約 200 年	枝下高が約８ｍあり、それ以上は比較的樹形がよい。ただし、北側の枝振りは若干良くない。葉の裏を引っ掻いて字を書くと黒く残るので「はがきの木」とも言われる。
2	駒形町森本家のイチョウ	駒形町 1111-2	26.5 m	3.31 m	約 200 年	樹勢旺盛。主幹は通直で枝振りは東西南北均等に張り出し、均整がとれている。同庭内にクスノキがある。
3	下長磯町のエノキ	下長磯町 23	25.5 m	8.86 m 東幹 5.57 m 西幹 4.47 m	約 400 ～ 700 年	落雷により主幹は朽ち、地上３ｍ付近より２幹に分岐し、さらにその先端は折れて腐朽している枝が多い。根元には大きなこぶもあり、石の祠が根の組織に食い込んでいる。
4	五代町片貝家のタブノキ	五代町 458-2	16.5 m	3.49 m	約 300 年	枝下高は３ｍ程であるが、樹冠がもこもこと付いている。樹勢は極めて旺盛。
5	龍蔵寺のクスノキ	龍蔵寺 68	23.0 m	3.68 m	約 300 年	地上３ｍ付近より２幹に分岐している。樹勢は比較的旺盛。
6	宮鍋神社のクスノキ	元総社町 2037 宮鍋神社	29.0 m	5.95 m	約 400 年	地上１．５ｍ付近より５幹に分かれている。いずれの幹も枝下高は１２ｍ程あり、奇抜な形態をしている。樹勢は旺盛。

Ⅱ 文化財調査

1　刀剣の調査

石井昌重氏のご遺族から寄贈された刀剣についての調査は、平成 11 年度より始められた。本年度は第３年次で引き続き東京国立博物館宝物室長　原田一敏氏によって進められた。調査結果は以下の通りである。

脇指　銘　越前国下坂継廣



法量　（単位ｃｍ）

刃長	４５．３	反り	１．２
元幅	２．９	先幅	２．２
元重	０．７	先重	０．５
鋒長	３．７		

形式　鎬造、庵棟、中鋒、身巾広く、反り浅くつく。
鍛　板目流れ、やや肌立つ。
刃文　互の目に箱がかった刃、尖り刃交じり、沸くつき、砂流しかかる。
帽子　表直ぐに丸く、裏のたれ込み尖りごころに返る。
茎　生茎、先剣形、鑢目浅い勝手下り、目釘孔１。

説明　近江守継廣は越前下坂派の刀工で、明暦３年(1657)寛文３年(1663)などの年紀作がある。越前のほか江戸、近江膳所でも作刀している。本作は銘の書体、作風ともその典型である。

脇指　銘　兼吉

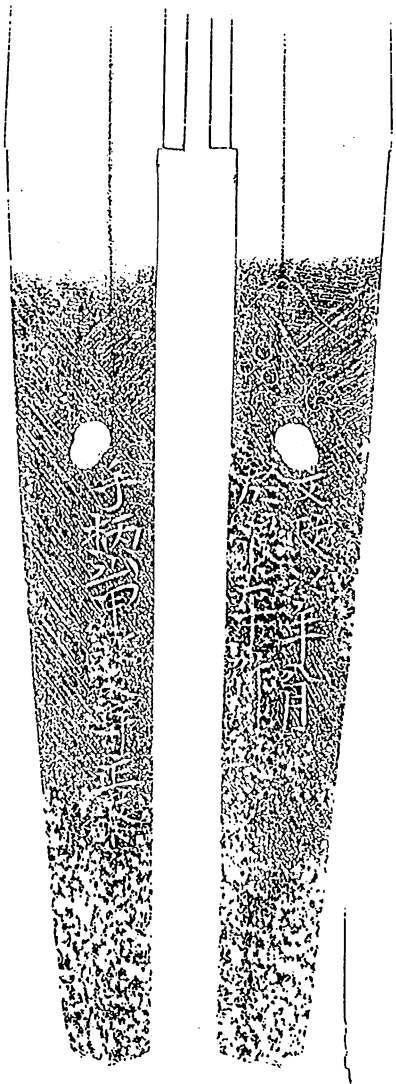
法量　（単位ｃｍ）

刃長	４３．９	反り	０．９
元幅	２．５	先幅	１．６
元重	０．６	先重	０．４
鋒長	２．８５		

形式　鎬造、庵棟、反り浅く、中鋒。
鍛　板目に杢目交じり肌立つ。
刃文　互の目に尖り刃交じり、匂勝ち、小沸つき砂流しかかる。
帽子　のたれこみ尖りごころに返る。
茎　生茎、先栗尻、鑢目鷹羽、目釘孔１。

説明　兼吉は美濃の関の刀工。同銘が南北朝時代から江戸時代まで数工いるが、この脇指は、作風から江戸時代中期以降のものと鑑られる。互の目が尖って連れる刃文は美濃刀に多く見られる。

脇指　銘　手柄山甲斐守正繁
於浪華作庫之
文政二二年八月



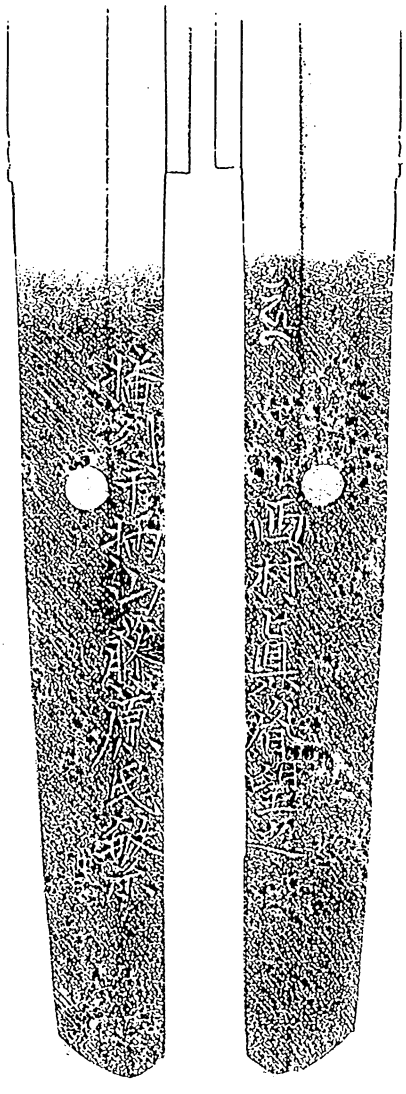
法量　（単位ｃｍ）

刃長	５２．７	反り	１．０
元幅	２．８	先幅	２．１
元重	０．６５	先重	０．５
鋒長	４．０		

形状　鎬造、庵棟、反り浅くつき、中鋒。
鍛　小板目よくつみ、大肌交じる。
刃文　浅いのたれ調、物打刃巾広く、互の目交じり足入る、匂勝ち。
帽子　直ぐに先尖りごころに返る。
茎　棟丸、尻入山、鑢目化粧大筋違、目釘孔１。区下に富士、鶴、宝珠を毛彫する。

説明　手柄山正繁は本国播磨、三代氏繁の弟で、氏繁四代目となる。後に正繁と改めた。天明８年(1788)、奥州白河藩の松平定信の抱え工となり、江戸に住した。文政元年(1818)頃から大阪で作刀している。沸の深い直刃やのたれ刃、濤瀾刃を得意としており、幕末期の江戸を代表する名工の一人である。本作は、銘はよいが、作風が通常とは異なっており、刃区に水影がたっているところから、あるいは再刃（火災にあって再び焼きをいれたもの）とも思われる。

脇指　銘　播州手柄山藤原氏繁
（梵字）西村眞胤望之



法量　（単位ｃｍ）

刃長	５７．７	反り	１．３
元幅	２．７５	先幅	１．９
元重	０．８	先重	０．６
鋒長	３．５		

形状　鎬造、庵棟、反り浅く中鋒。
鍛　小板目よくつむ。
刃文　中直刃浅くのたれて、小互の目交じり沸つく。
帽子　直ぐに大丸に返る。
茎　生茎、先刃上栗尻、鑢目大筋違、目釘孔１。

説明　手柄山氏繁は播磨姫路の刀工。同銘が寛文頃を初代として三代続いている。この脇指は、その二代目の作である。宝暦７年(1757)から天明元年(1781)頃までの年紀作がある。天明３年12月25日没した。作風は沸のよくついた直刃や、のたれ刃が多く、本作もその典型である。

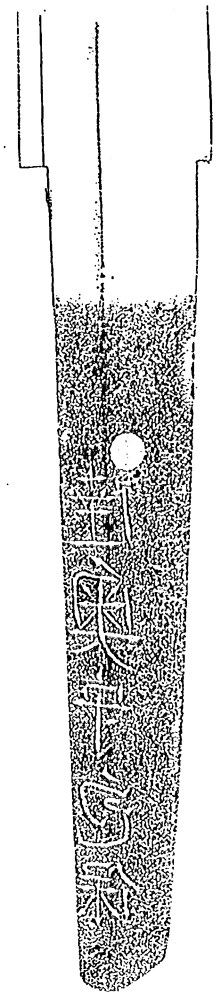
脇指　銘　陸奥守包保（左字）

法量　（単位ｃｍ）

刃長	５７．６	反り	１．７
元幅	３．０	先幅	２．０
元重	０．７５	先重	０．５
鋒長	３．２		

形状　鎬造、庵棟、中鋒。
鍛　小板目肌つむ。
刃文　大互の目、矢筈がかった刃、耳形の刃など交じり、大きく乱れ沸よくつく。
帽子　直ぐに丸く返り、長く焼き下げる。
茎　生茎、先刃上栗尻、鑢目大筋違、目釘孔１。

説明　陸奥守包保は、本国は大和で、手掻派の末流と称している。のちに大阪に出た。初二代があるが、初代は鏡に写したような左字に銘文をきるのを特徴としている。本作も左字ではあるが、書体が通常のものとは異なっており、検討の余地を残す。



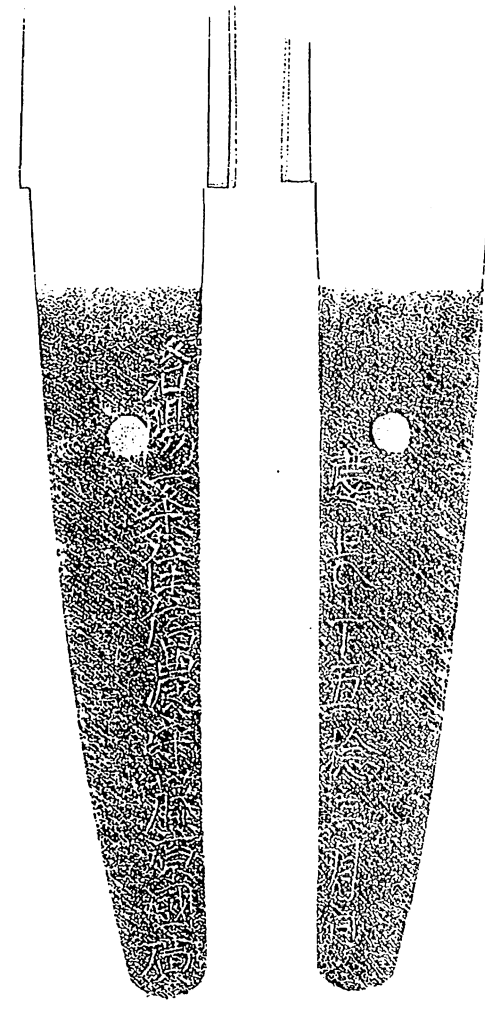
脇指　銘　洛陽一条住信濃守藤原国廣　慶長十五捻二月日

法量　（単位ｃｍ）

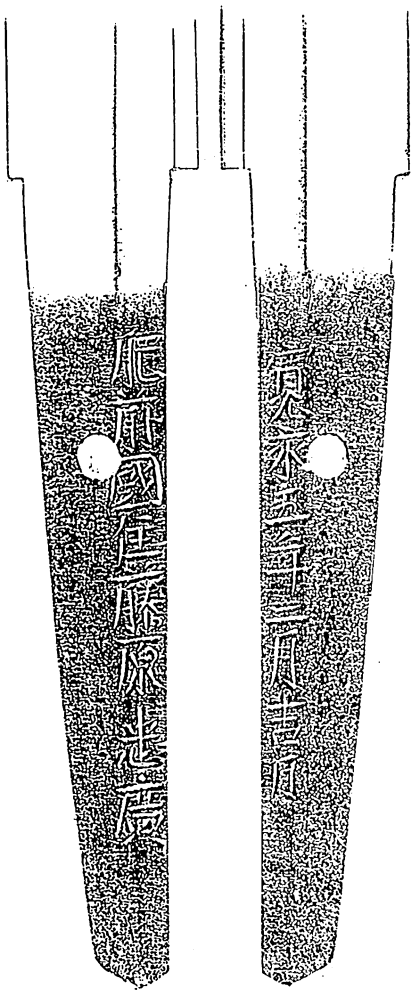
刃長	４２．０	反り	１．２
元幅	２．２５		
元重	０．７５		

形状　平造、三ツ棟、身幅広く、反りややつく。
鍛　板目に杢目交じり、地沸つく。
刃文　大互の目乱、矢筈がかった刃、耳形の刃など交じり、荒めの沸つき、砂流しかかる。
帽子　直ぐに表丸く、裏のたれこみ先尖りごころに返る。
茎　生茎、先栗尻、鑢目大筋違、目釘孔１。

説明　国廣は日向（宮崎県）飫肥の伊東家に仕えたが、主家没落後は、山伏となり諸国を流浪したと伝える。天正 18 年（1590）には、信濃守を名乗り、上野足利学校でも作刀している。慶長４年(1599)以降京都一条堀川に定住し、この地で多くの門弟を育成した。新刀鍛冶の祖といえる刀工である。
この脇指は作風としては江戸時代初期の作と見られるが、銘の書体が国廣の同時期のものと比較して異なっており、検討の余地を残す。



脇指　銘　肥前国住藤原忠廣
寛永五年二月吉日



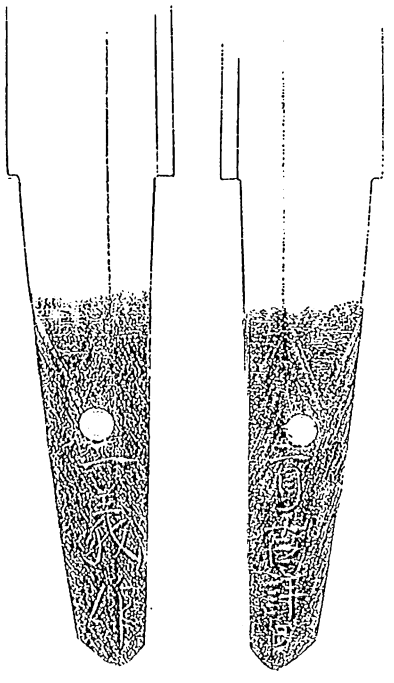
法量　（単位ｃｍ）

刃長	５１．３	反り	１．１
元幅	２．８５	先幅	２．１
元重	０．７	先重	０．５
鋒長	３．１		

形状　鎬造、庵棟、反り浅く中鋒。
鍛　板目に杢目交じり、肌立ちごころとなる。
刃文　大のたれ、沸つく。
帽子　直ぐに大丸ごころに返る。
茎　生茎、先尻入山形、鑢目切、目釘孔１。

説明　武蔵大掾忠廣は肥前初代忠吉と同人。忠吉は肥前鍋島藩の抱え工で、幕末まで名跡が継がれている。初代は橋本新左衛門と称し、慶長元年(1595)に藩命により京の埋忠明寿の門に学んだ。慶長３年帰国し、佐賀城下で作刀を行い、元和10年(1624)再び上洛して、武蔵大掾を受領し、名を忠廣と改め、寛永９年(1623)に61歳で没した。
この脇指の銘は、作風、銘の書体とも通例とは異なっており、検討する余地がある。

短刀　銘　一義作
二月吉祥日



法量　（単位ｃｍ）

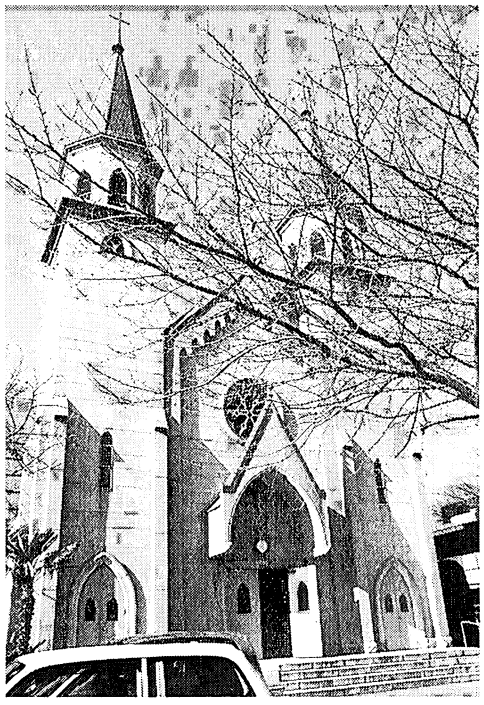
刃長	２２．８	反り	０．１
元幅	２．５５	先幅	２．５
元重	０．５	先重	０．５
鋒長	１５．３		

形状　おそらく造、庵棟、大鋒、鋒大きく延び、反りわずかにつく。
鍛　小板目よくつむ。
刃文　互の目乱、匂深く沸よくつく。
帽子　直ぐに大丸ごころに返る。
茎　生茎、先深い栗尻、鑢目化粧付き大筋違、目釘孔１。

説明　一義は銘鑑に天保頃、出羽の二代目池田一秀の初銘とあるのが、唯一刀剣書に掲げられている刀工である。作風から幕末期の作とみられるが、二代目池田一秀の作とは茎の仕立て方から確定できない。横鑢に鷹羽を組み合わせた化粧鑢は、上野国の藤枝太郎英義に類似しており、また「義」の字を名乗っていることから英義の弟子と考えられる。
身に比べ切先の大きく延びた短刀を「おそらく造」と称しているが、これは室町末期の駿河島田助宗にこうした姿の短刀があり、その刀身に「おそらく」の文字が彫られているからである。

Ⅲ　新登録文化財紹介

前橋カトリック教会聖堂



区　　分	国登録有形文化財
登録番号	第10-0085号
登録年月日	平成13年11月20日 （原簿記載）
所在地	前橋市大手町2-14-6
所有者	宗教法人カトリック浦和教区
構造、形式及び大きさ	鉄筋コンクリート造平屋一部３階建て 建築面積375㎡
建設の年代	昭和７年

概　　要

前橋カトリック教会聖堂は、前橋市役所東方に位置し東面して建っている。この聖堂は、前橋教会最初の邦人司祭内野作蔵の多大な尽力によって建設された。正面左右に下部四角、上部八角の塔を立上げた双塔形式で、尖頭アーチ、ステンドグラスを使った大きな窓を持つ建造物である。主体構造は鉄筋コンクリート造で、一部３階建てになっている。外壁は左官仕上げの一つである人造石塗洗出し仕上げで、正面と左右の外壁には、ロンバルディア帯とされる装飾が見られる。内部は３廊式で、身廊部天井は８分ヴォールトとされる肋骨形式となっている。

全体的にゴシック様式を基調とするものであるが、身廊部の簡明な壁面構成や陸屋根状の側廊部などモダンな取り扱いが見られる。ペンダントライトやステンドグラス、祭壇等は竣工当時のものである。

昭和20年８月５日の前橋空襲では、正面南側の尖塔の一部が焼けただけで焼失は免れた。聖堂は、この戦禍をもくぐり抜けてきた貴重な建造物といえる。

前橋カトリック教会聖堂は、その建設年代やデザインが優れていることからみて、登録基準の「造形の規範となっているもの」に該当する建造物として、登録文化財になった。

Ⅳ 文化財保護事業

1 保護管理運営事業

(1)国有文化財管理

国指定史跡の（総社）二子山古墳と（天川）二子山古墳は、それぞれ地元の山田信久さんと堀口和四郎さんを国有文化財監視人にお願いし、日常管理を実施した。

また、除草作業や清掃作業等については、地元の前橋市総社地区史跡愛存会〔（総社）二子山古墳〕と前橋市連合青年団〔（天川）二子山古墳〕が実施した。

(2)国・県・市指定文化財管理

市内には、国指定文化財が 21 件、県指定文化財が 40 件、市指定文化財が 114 件あり、合計 175 件の指定文化財がある。

今年度には、市指定文化財 38 件について、管理状況調査を実施した。

なお、区分については次の通りである。

①指定区分文化財管理　　（平成 14・4・1）

区分 / 種別	重要文化財	史跡	天然記念物	無形文化財	民俗文化財	重要美術品	合計
国指定	3	11	1	0	0	6	21
県指定	34	5	0	0	1	0	40
市指定	73	18	7	8	8	0	114
合　計	110	34	8	8	9	6	175

②時代区分別文化財　　（平成 14・4・1）

指定別（件数）時代別	国指定	県指定	市指定	合計	
				件数	割合%
天　然	1	0	7	8	4.6
原　始	1	0	0	1	0.6
古　代	15	3	17	35	20.0
中　世	2	18	33	53	30.3
近　世	2	15	40	57	32.6
近　代	0	3	1	4	2.2
民　俗	0	1	16	17	9.7
合　計	21	40	114	175	100

(3)史跡の除草・清掃事業

市内各地区に存在する史跡において、市が直接管理すべきものについて、地元自治会やシルバー人材センター、業者に除草・清掃作業を委託し、史跡が美しく保たれるように作業を実施した。

実施箇所は、次の表の通りである。

	史跡名	区分	所在地	除草延面積
1	亀塚山古墳	市史跡	山王町 1-28-3	4,968 ㎡
2	金冠塚古墳	市史跡	山王町 1-13-3	4,814 ㎡
3	今井神社古墳	市史跡	今井町 818	4,624 ㎡
4	車橋門跡	市史跡	大手町 2-5-3	750 ㎡
5	天神山古墳	県史跡	広瀬町 1-27-7	1,095 ㎡
6	八幡山古墳	国史跡	朝倉町 4-9-3	30,000 ㎡
7	中二子古墳	国史跡	東大室町 1501	30,000 ㎡
8	後二子古墳	国史跡	西大室町 2616-1	18,000 ㎡
9	蛇穴山古墳	国史跡	総社町総社 1587-2	400 ㎡
10	宝塔山古墳	国史跡	総社町総社 1606	4,408 ㎡
11	女堀	国史跡	東大室・二之宮・飯土井町	55,600 ㎡
12	不二山古墳	市史跡	文京町	1,142 ㎡
13	荒砥冨士山古墳	県史跡	西大室町	2,700 ㎡
計				158,501 ㎡

除草の様子

(4)文化財パトロール

市内を６地区に分け、各地区に１名の文化財保護指導員を委嘱し、指定文化財を中心に文化財パトロールを実施した。

文化財パトロールの結果は、月に１～２回程度文化財保護課に報告があり、指定文化財等を管理していく上で必要な情報を得られた。そのため、日常管理をはじめ緊急事態等に計画的かつ迅速に対応することができた。

各地区の文化財保護指導員は、表の通りである。

地　　区	氏　　名	住　　所	電　話
中　　央	福島　守次	天川大島町	
総社・清里	関口　淳七	総社町総社	
東・元総社	中島　孝雄	石倉町	
上川淵・下川淵	関根　辰雄	山王町	
南橋・芳賀・桂萱	栗原　秀雄	荒牧町	
城　　南	森村伊勢雄	富田町	

(5)松喰虫・アメリカシロヒトリ防除

前橋市の管理する史跡地内の松の木に発生する松喰虫を駆除するために、農政課に協力をして防除薬剤散布に立ち会った。また、業務委託により、桜の木に発生するアメリカシロヒトリなどの害虫防除のために、薬剤散布を行って、史跡の保全管理を図った。

〈松喰虫の防除〉

八幡山古墳・大室古墳群

［一回目］5月29日（火）［二回目］6月13日（水）

〈アメリカシロヒトリ防除〉

総社二子山古墳・宝塔山古墳・蛇穴山古墳・前二子古墳・中二子古墳・天川二子山古墳

［一回目］6月9日（土）［二回目］8月8日（水）

(6)前橋市蚕糸記念館の管理・運営

明治 45 年国立原蚕種製造所前橋支所の本館として岩神町に建設された建物で、その後現在地に移築保存が行われた。

開館時は、シルバー人材センターから職員が派遣され、見学者への対応を行っている。また、本館内外の現況及び見学者からの要望等については、派遣職員から情報を得て対応した。

本館内では、養蚕・製糸に関する用具・器械等が展示されていることから、「糸の町」前橋を知る上で一つの学習の場となっている。市内の小学生をはじめ、市外や県外から多くの見学者が訪れた。

今年度については、前年度の調査に基づいた屋根修理工事、さらに、建物の基礎を雨水から守るため排水設備修繕工事を実施した。なお、排水の状況によっては再度修繕工事を行う必要も考えられる。

本年度の入館者は、5,605 名であった。

前橋蚕糸記念館第４展示室

(7)文化財防火査察

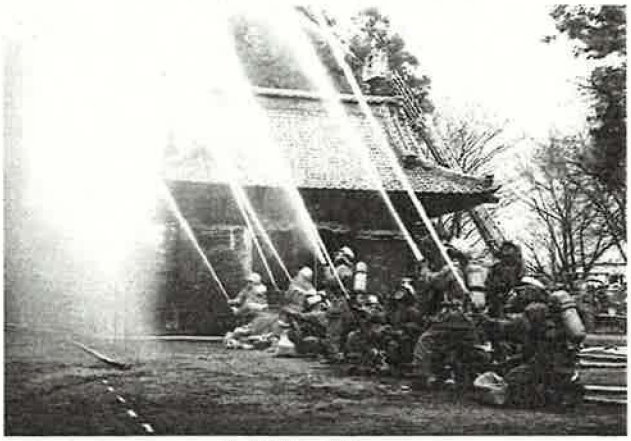
昭和 24 年 1 月 26 日に奈良県法隆寺金堂壁画が焼失したことをきっかけに、毎年実施されている文化財防火デーは、今年で 47 回目になる。

今年も前橋広域消防本部と協力して、下記の指定文化財の立入査察や文化財の防火訓練を行った。

［立入検査］1 月 23 日（水）

前橋蚕糸記念館、旧アメリカン・ボード旧宣教師館妙安寺、東照宮、源英寺、東福寺、臨江閣本館・茶室・別館、神明宮の甲冑（教育プラザ）、孝顕寺、円満寺、駒形神社、慈照院、無量寿寺、二宮赤城神社、産泰神社、総社神社、光巌寺、徳蔵寺、日輪寺、善勝寺、上泉郷蔵など合計 36 か所を査察

［防火訓練］1 月 27 日（日）粕川村近戸神社



放水訓練の様子

(8)収蔵民具の移送

前橋市の文化財保護行政の民具管理施設として、元総社南小学校及び中央公民館、文化財保護課の三施設に分散収蔵していた。その施設のうち、元総社南小学校及び中央公民館の二施設から、今後の課における民具管理の一元化を図る目的で、三俣町文化財保護課庁舎収蔵庫に民具移送［3 月 9 日（土）］を行った。

［移送した主な民具］

機織り機、揚げ返し機、長持、茶箱、醸造用桶、木製冷蔵庫、馬具、旧利根川の橋材、タワラ編機、ムシロ編機、糸つむぎ機、さおハカリ、台ハカリ、給水器、毛羽取機、草刈機、脱穀機、座繰、糸繰、帳場タンス、土ならし、ふるい、竹カゴ、苗カゴ、テンガ、マンガ、エンガ、御膳重箱、トックリ飯茶碗、ひな人形、臼、コンロ、ナベ、アンカ、ヤカン、ランプガス燈、屏風など 192 種 425 点

2 整備事業

(1)歴史散歩道整備事業

平成 13 年度、総社元総社歴史散歩道については、例年どおり総社資料館の管理・運営を中心に、史跡等の管理・運営を実施した。

①総社資料館の管理・運営

今年もボランティア説明員（総社地区史跡愛存会）の方々には開館業務及び展示資料の説明等を行ってもらった。3 月には、太田・新田・尾島方面へ資質向上のために視察に行き、研修をしてきた。

展示関係では、北蔵中央にある案内地図を、立体模型に作り替えた。新しくなった案内図は来館者にとって、見やすく、分かりやすいものとなった。また力田遺愛碑の拓本コピーも展示し、よりよい展示を目指した。

修繕関係では、事務室エアコンと北蔵スイッチの修理を行い、来館者にとっては、より利用しやすいものとなった。

このような展示及び修繕を行っていくことで、なお一層充実した資料館づくりができるものと思われる。今年度の開館日数は 249 日で、来館者数は 4,194 人だった。

総社元総社地区パノラマ模型

②「第 11 回秋元歴史まつり」への協力

『新・収蔵展』をテーマに、特別展を実施した。今回は平成 12 年度の発掘現場である山王若宮Ⅱ遺跡、大屋敷遺跡Ⅳ、上野国分寺寺域確認調査Ⅱ、五代江戸屋敷、富田下大日Ⅰ遺跡、以上 5 ヶ所からの出土品を公開した。

当日は、スタンプラリーのチェックポイント場所ということもあって、大勢の人で賑わっていた。

総社資料館特別展示

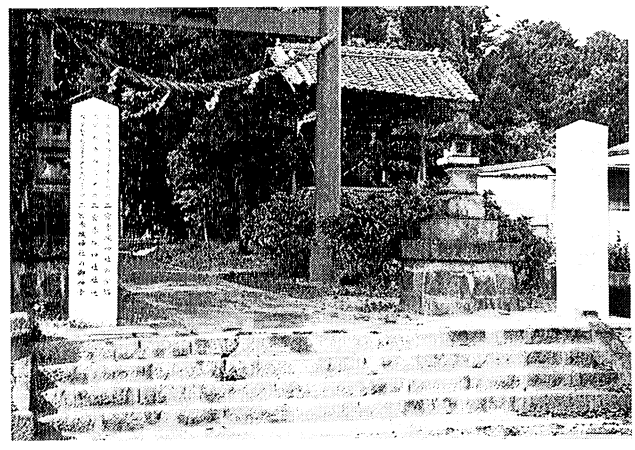
(2)文化財標柱設置

平成 13 年度は、次の指定文化財の標柱の立て替え及び新設を実施した。

※　標柱の改修・新設　　各 1 基

①　県指定重要文化財　納曽利面ほか 3 件

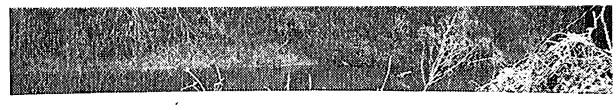
②　市指定重要文化財　二宮赤城神社の宝塔ほか 2 件

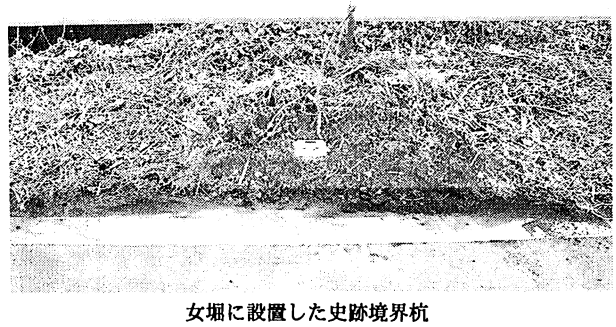


改修（右）・新設（左）された標柱

(3)史跡境界杭の設置

国指定史跡女堀のうち、二之宮女堀沼地区の北側の沼と道路の官官境界の史跡範囲を確定するため、史跡境界杭の設置を行った。





女堀に設置した史跡境界杭

(4)文化財案内表示の整備

本事業は、群馬県教育委員会が県内にある文化財案内表示板を平成 12 年度から平成 16 年度までの 5 年計画で整備を実施するものである。前橋市には、コース案内板が 5 基、導入案内板が 21 基、道標が 33 基、説明板が 1 基設置されている。設置にあたっては、案内板の損傷状況の著しいものや危険性のあるもの、地域性等を考慮し優先順位をつけ順次実施していく予定である。

本年度については、2 基の建て替えを行った。建て替えにあたっては、設置当初とは住環境や道路状況等が変化しているので、認識し易く通行上の妨げにならない場所や位置を選定するとともに、土地所有者からは、土地借用の承諾を得て実施した。

No.	設置の場所	対象文化財
1	総社町総社 2544-1	(国)山王塔跡(国)根巻石
2	昭和町 3-7-27	(国)岩神の飛石(国)梵鐘

3 普及事業

(1)第26回前橋市文化財展

・テーマ　『群馬の史跡』
・期　間　平成13年10月4日(木)
　　～10月7日(日)
・会　場　前橋市民文化会館　小展示ホール

前橋市で第36回全国史跡整備市町村協議会大会が開催されることを記念して、「群馬の史跡」をテーマに群馬県内の史跡やその整備状況を紹介するとともに、前橋市内の史跡を広い視野で位置づけ、その歴史的な意義を見つめる内容とした。

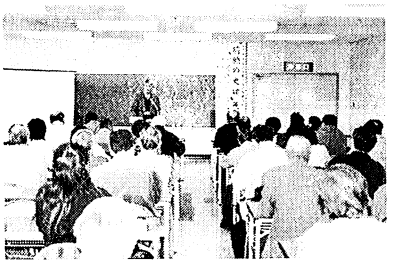
県内の主な史跡を写真パネルで紹介するとともに、前橋市内の史跡地等から出土した遺物を展示した。開催期間の入場者数は、前述の大会の参加者を含め、1,108名であった。

文化財展の会場の様子

(2)第20回文化財普及講座

『前橋の史跡』をテーマに4回の講座を開講した。今年度は、大室古墳群の現地見学を取り入れることにより、受講者が講座の内容を肌で感じられるようにした。4回の講座の具体的な内容は、下表の通りである。

期日	演　　題	講　師
10/27(土)	大室古墳群の整備～前二子古墳の探査坑を巡って～	井上唯雄氏 前橋市文化財整備指導員
11/2(金)	大室古墳群現地見学	文化財保護課職員
11/10(土)	山上碑と山王廃寺	前沢和之氏 横浜市歴史博物館学芸課長
12/1(土)	「前橋の史跡」その歴史的意義	右島和夫氏 県立歴史博物館普及課長



普及講座受講の様子

(3)第29回前橋市郷土芸能大会

・日時　　平成13年11月24日(土)
　　午後1時～4時30分
・会場　　前橋市民文化会館　小ホール

前橋市をはじめとする赤城山南麓には、人々の心のよりどころとして守り育てられてきた伝統ある郷土芸能が受け継がれてきた。これらは、どれも地域に根ざしたものであり、人々の生活の様子を伺い知ることができる。

しかし、近年次第に人々の生活から忘れ去られようとしている。そこで本大会は、郷土芸能に対する人々の理解を深め、地域文化の高揚を図るとともに、郷土芸能の保護・伝承を目的に、昭和48年以来、開催されてきた。今回の公演は、広域圏を含む7団体が郷土芸能を公開した。会場には約600人の来場者があり、多種多様の郷土芸能の競演が好評であった。

春日神社太々神楽「歪の舞」

○公演および出演団体

郷土芸能の名称	保存会名	所在地
上泉の祇園囃子	上泉四区祇園囃子保存会	前橋市上泉町
立石の獅子舞	立石獅子舞保存会	前橋市総社町
花和讃	極楽寺和讃会	前橋市亀里町
赤城神社太々神楽	赤城神社太々神楽保存会	勢多郡宮城村
雅楽	二之宮町無形文化財保存会	前橋市二之宮町
横室子供祇園囃子	横室子供祇園囃子保存会	勢多郡富士見村
春日神社太々神楽	春日神社太々神楽保存会	前橋市上佐鳥町

(4)文化財めぐりパンフレットの作成

市内を6地区に分けた文化財めぐりパンフレットのうち、今年度は、「旧沼田街道沿い」「朝倉・広瀬」の2地区のパンフレットを増刷した。増刷にあたっては、新たに加わった新指定文化財を追加掲載をするとともに、これまでの標語に換え、平成13年度の文化財愛護作品コンクールで入賞した標語を掲載した。このパンフレットは希望する市民に配布するようにしている。

(5)文化財愛護作品コンクール

児童生徒の文化財に対する愛護精神を育成するために、文化財愛護作品コンクール(標語と絵画)とその市長賞作品を掲載する文化財愛護ポスター作成を交互に隔年実施している。今年度はコンクールを実施の年として、市内の小中学生を対象に作品応募したところ、467 点の応募があった。前回よりも応募総数は減ったが、小学校からは 21 校、中学校からは 11 校で応募学校数は多くなり、本コンクールが幅広く関心を集めた結果となった。

専門の審査員による慎重な審査の結果、下記の児童生徒の作品が選ばれた。

なお、選ばれた作品は、市役所 12 階市民ロビーに展示し、多くの市民に鑑賞していただくとともに、文化財に対する愛護の気持ちを高める一助になった。

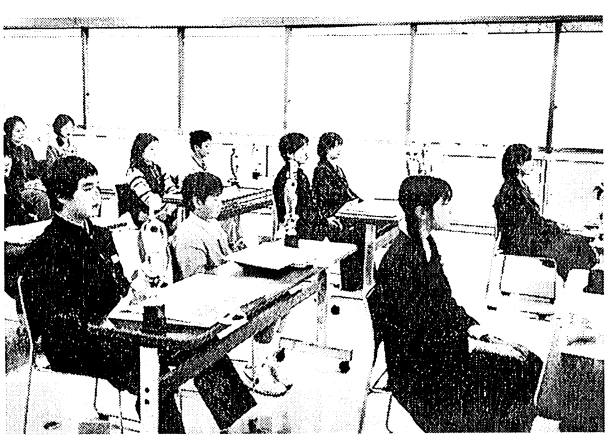
展示期間　平成 13 年 12 月 7 日(金)～ 20 日(木)

標語の部

市長賞	阿部さやか	附属中 1 年
「文化財	皆の愛護で	光を放つ」
教育長賞	笠原　照平	附属中 1 年
	茶木　優華	附属中 2 年
優秀賞	大澤　喜子	荒子小 4 年
	村田　圭祐	桂萱東小 6 年

絵画の部

市長賞	大澤　翠美	木瀬中 2 年
教育長賞	木暮　圭佑	清里小 4 年
	富澤　　空	第三中 2 年
優秀賞	佐藤　真美	木瀬中 2 年
	杉田　隼斗	鎌倉中 2 年



表彰式に臨む受賞者

(6)各種講座・史跡・文化財めぐりへの講師派遣

公民館の主催する文化財講座、地域の歴史愛好会の学習会等の講師として依頼を受け、学習活動の手伝いをした。また、小学校の学習会や社会科見学・自治会の史跡めぐりの講師として、整備が進んでいる大室公園を中心に、蚕糸記念館、臨江閣等の案内・説明を行い、文化財への理解を深める支援を行った。

(7)ビデオ学習教材の作成

学校教育や社会教育の場で活用されることを目的とし、平成 11 年度から学習ビデオの作成を始めた。

今年度は、敷島公園ばら園の一角にある県指定重要文化財「旧蚕糸試験場事務棟(前橋市蚕糸記念館)」を紹介する学習ビデオを作成した。

前橋市蚕糸記念館は、「糸の町」前橋のシンボルとして後世に遺すため、移築保存された建物である。館内は、4つの展示室に分かれ、養蚕・蚕糸に関する道具等が展示され、蚕糸業とともに歩んできた前橋の近代史をしのぶ記念館として公開されている。ビデオの編集にあたっては、このような歴史的価値や意味についても触れ、小学校中学年以上を対象にしたわかりやすい内容となっている。

(8)郷土芸能映像記録保存

市指定重要無形文化財(郷土芸能)映像記録保存は、次世代への伝承と市民への普及活動を目的として行われている。道具や演技の方法、しぐさ、間合い、一挙一動、声などをも細かく記録するため、ＶＴＲ専門業者に撮影、編集を委託し、永久保存を図っていくものである。本事業は、平成 8 年度から平成 19 年度まで行われる予定になっている。

今年度は、二之宮町無形文化財保存会に依頼し、11 月に二之宮町公民館及び二宮赤城神社境内の舞台で「二之宮の式三番叟附伝授書」の撮影を行った。撮影は、衣装及び小道具から始まり、化粧や衣装の着付け、伝授書、そして式三番叟の舞へと進み、後世に遺すべき映像記録保存にふさわしい完成品となった。

(9)文化財資料の貸出

県内外の博物館・資料館への実物資料の貸出が 6 件、出版社等への写真資料の貸出が 17 件あった。また、市内の小学校に対して、実物資料の貸出が 2 件あった。

貸出した主な実物資料と貸出先は次の通りである。

貸　出　資　料	貸　　出　　先
柳久保遺跡出土縄文土器	群馬県立歴史博物館
鳥取福蔵寺遺跡出土石器	岩宿文化資料館
前山Ⅱ遺跡出土墨書土器等	かみつけの里博物館
放光寺銘へら書瓦等	高崎市観音塚考古資料館
奈良三彩小壷	窯業史博物館・赤堀町歴史民俗博物館

(10)刀剣類の手入れ

石井昌重氏のご遺族から寄贈された貴重な刀剣に、錆等が発生するのを未然に防ぎ、良好な状態で保管するために、手入れを行った。

また、山城國文殊包重の銘のある十文字槍に錆があったため、研磨を行うとともに白鞘を作製し、保存に万全を期した。

(11)文化財保存団体への助成

地元に残る文化財の説明板の設置を通して、見学者などに便宜を図っている団体、郷土芸能の継承に力を尽くしている団体や、郷土芸能を継承していく上で、道具等の補修を実施しなければならない保存会に、補助金を交付した。補助金を交付した団体は次のところである。

・総社地区史跡愛存会
・前橋市郷土芸能連絡協議会
・上泉の獅子舞保存会
・華粋会（前橋市鳶伝統文化保存会）

(12)指定文化財の補修・修理

①県指定重要文化財「前橋市蚕糸記念館」の屋根修理

前橋市蚕糸記念館(旧蚕糸試験場事務棟)は、明治 45

年に建てられた建物で、昭和 56 年 7 月 10 日に県指定重要文化財となった。

その後、現在に至るまで約 20 年経過したが、長年風雨にさらされたため、屋根全体の損傷や瓦のずれなどから雨漏りも懸念されるようになってきた。そこで、平成 11 年 12 月に屋根の部分補修をしたところ、当初考えていたより傷みがひどく、特に屋根の北面に至っては、瓦の落下の危険性も予測されたため、棟の北側は立入禁止とし、平成 12 年 2 月から 3 月にかけて屋根の状況調査を行った。また、平成 12 年 5 月には第 2 展示室天井から雨漏りが発生し、修理を行った。

以上、調査結果や現状から、本棟の保存に万全を期すため、早急に屋根全体の葺き替え並びに樋の修理の必要が生じたので、平成 13 年度群馬県文化財保存事業として補助を得て着工、完成となった。

なお、主な事業内容は、以下のとおりである。

・本館は県指定重要文化財のため、県からの指導を受け修理事業を実施。
・葺き替えは引掛桟瓦葺きで全体を行い、瓦桟等も新規品とするが、鬼瓦は既存品を焼き直し使用。
・瓦はなるべく旧来品に近い型・質感・色調を用いるものとし、平瓦は切り落とし瓦、軒先瓦はベタ万十軒を使用。(いぶし瓦)
・玄関上部の立物は、開所当時の写真資料から、寸法や形状を割り出し、復元した立物を使用。
・野地板の修理をするとともに、樋の修理も合わせて実施。

屋根修理後の前橋市蚕糸記念館

②市指定重要有形民俗文化財「上泉の獅子舞」獅子頭修理及び獅子舞用締太鼓新調事業

上泉の獅子舞は、昭和 45 年 2 月 10 日に前橋市指定重要有形民俗文化財となった。その起源はさらに遡るが、これまでの使用により、獅子頭及び太鼓の損傷が進み、舞を演じる上で支障を来すようになってきた。

そこで、文化財調査委員による調査を行い、その結果に基づき、獅子頭及び締太鼓の修理を実施した。

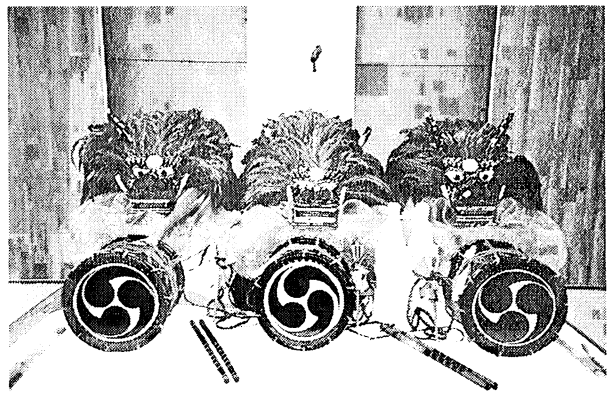
なお、主な修理内容は、以下のとおりである。

○獅子頭について

・獅子頭と頭受けの接合部分を接合。
・羽毛の差込に差し直し。
・塗りが剥落していたので、塗り直し。
・頭受けの拡大。
・牙の固定。
・角を新たに取り付け。

○獅子舞用締太鼓

・新調。
(直径 1 尺、巾 8 寸、麻紐付、三つ巴、胴本漆塗)



修理後の獅子頭と締太鼓

③市指定重要文化財「前橋祇園祭礼絵巻(文政 11 年)」の補修

市立図書館が保存・管理している市指定重要文化財「前橋市祇園祭礼絵巻(文政 11 年)」の傷みが進行しているため、補修した。補修に先立ち、文化財調査委員市立図書館職員・文化財保護課職員・業者とで補修の方針、作業の進め方等を確認し、補修に万全を期した。

主な補修内容は、以下のとおりである。

・絵具の剥離を進行させないように絵具止めを行う。
・虫喰いの跡を、楮紙で埋める。
・本紙の折れなどの傷みを補強しながら元に戻す。
・本紙の廻りに和紙を付け足し、縁廻しを施す。
・裏打ちをする。

④県指定重要文化財「臨江閣本館及び茶室」、市指定重要文化財「臨江閣別館及び渡廊下」の補修

本館と茶室は明治 17 年に県の迎賓館として、別館は共進会の貴賓館として建てられた近代和風の木造建築物である。平成 13 年度、国民文化祭の会場の一つとして利用されることを契機に、次のような補修を行った。

・本館、別館の障子張り替え
・別館の畳の取り替え
・別館の玄関引戸の補修

⑤市指定史跡「前橋藩主酒井氏歴代墓地」の樹木伐採

史跡地内にある樹木の腐朽が進行しており、樹勢の衰えが目立ち、枯れつつある状態になっているものが多くあり、倒木等の予想される状況に至った。倒木等による酒井氏歴代墓地の墓石、石柵の損壊を防ぐため、文化財調査委員による樹木調査を実施し、伐採する樹木、枝降ろし等について検討した。その結果、樹勢の回復が見込めない樹木を伐採することとし、龍海院により実施された。

4　第３６回全国史跡整備市町村協議会大会の開催

(1)開催期日

平成 13 年 10 月 3 日（水）4 日（木）5 日（金）

(2)開催場所

10 月 3 日（水）　前橋市民文化会館
（大会・講演会・記念公演・情報交換会等）
10 月 4 日（木）　エクスカーション１日目
10 月 5 日（金）　エクスカーション２日目

(3)参加者数

大会　411 名　情報交換会　361 名
エクスカーション　1 日目 267 名　2 日目 202 名

(4)開催内容

◎ 10 月 3 日

午前 11 時から全史協平成 13 年度第 2 回役員会が開催され、第 36 回大会運営等について協議し、満場一致で承認された。その後、昼食会をはさんで、大会は午後 1 時半の開会式から始まった。全史協副会長鈴木和夫多賀城市長の開会のことばの後、大川靖則全史協会長あいさつ、開催地の萩原弥惣治前橋市長のあいさつに続き、奥山茂彦史跡保全議員連盟代表、佐々木正峰文化庁長官、小寺弘之群馬県知事から来賓の祝辞をいただいた。

そして、来賓紹介に続いて奥野誠亮史跡保全議員連盟代表世話人の祝電を披露した後、本協議会の発展、史跡の保存・整備にご尽力された小倉前大垣市長の表彰があった。表彰と記念品の贈呈の後、次の総会に移っていった。

総会は、萩原前橋市長が議長となって進行し、冷水奈良市教育長の説明のもと「議案第 1 号・平成 12 年度事業報告及び決算報告」から「議案第 5 号・次期開催地について」まで審議され、全議案が満場一致で承認された。続いて次期開催地に決定された明和町の木戸口真澄町長から、同町の歴史・現状そして斎宮跡の史跡整備の取り組みや三重県一丸となっての準備組織等、第 37 回大会に向けての盛り上がりが感じられる説明があった。次に、冷水奈良市教育長から陳情活動方針についての説明がなされ、最後に大木高仁文化庁記念物課長から、平成 14 年度史跡関係予算説明があり、厳しい状況の中で史跡等の保存を重視して緊急性の高い直接買い上げ、保存修理、発掘調査において増額要求を行うことができたとのことであった。以上で総会が終了し、引き続いて閉会式に移った。

開会式であいさつをする前橋市長

閉会式は函館市の金山正智教育長から「第 36 回大会決議（案）」の提案があり、満場の拍手で承認され、大会決議が決定された。最後に、全史協副会長の木戸口明和町長から閉会のことばがあり、閉会式を終了した。

この後休憩をはさんで、国立歴史民俗博物館の白石太一郎教授から、「群馬の古墳とその整備について」という演題で講演をいただいた。講演では、スライドを交えながら群馬県の古墳の重要性や県内４つの古墳群の史跡整備の概要等について分かりやすく説明をされ、最後に「それぞれの役割分担そして全体のネットワークを組むとともに、どのような特徴を出すのかを明確にして整備を進めていくことが大切である」との提言があった。

続いて、県指定重要無形民俗文化財「下長磯操翁式三番叟」による記念公演が行われ、静寂な雰囲気の中、参加された方々は巧みに操られた人形の動きに感嘆の声をあげていた。また、文化財展『群馬の史跡』もこの大会にあわせて開催し、大会の休憩等を利用して多くの方々に観覧してもらうことができた。

記念公演終了後、午後６時から情報交換会を行い、文化庁関係者や大会に参加された方々に多数参加いただき、活発な情報交換と懇談が行われた。アトラクションでは市指定重要無形民俗文化財「前橋鳶木遣り」が披露され、参加された方々は、息のぴったり合った唄に魅了されていた。以上で大会初日の日程がすべて終わった。

大会２日目、３日目はエクスカーションで、次のようなコースを巡った。

◎ 10 月４日

Ａコース　前橋市　大室古墳群、赤堀町　女堀、
　　太田市　金山城跡、笠懸町　岩宿の里
Ｂコース　群馬県　上野国分寺跡、子持村　黒井峯遺跡、
　　月夜野町　矢瀬遺跡、前橋市　大室古墳群

◎ 10 月５日

Ｃコース　高崎市　山上碑及び古墳、
　　藤岡市　毛野国白石丘陵公園
　　解散式　群馬県立歴史博物館
Ｄコース　箕郷町　箕輪城跡、
　　群馬町　上毛野はにわの里
　　解散式　群馬県立土屋文明記念文学館

エクスカーション（大室古墳群）

解散式終了後は、昼食をとり三々五々の解散となった。４日は晴れで５日は雨模様と天候も様々であったが参加者は各地の史跡整備の状況について、熱心に視察されていた。

5　埋蔵文化財発掘調査事業

平成13年度の発掘調査事業をふりかえって

平成13年度は18遺跡の発掘調査が行われた。調査の内訳は、公共開発に伴うものが16遺跡、民間開発に伴うものが2遺跡である。

公共開発では、工業団地造成に伴うものが5件、住宅団地造成に伴うものが2件、地区開発事業に伴うものが3件、区画整理事業に伴うものが4件、その他、道路改良に伴う調査、樹木の移植に伴う古墳墳丘構築面の確認調査が1件ずつであった。

公共と民間を合わせた調査総面積は61,955㎡であり、その内昨年度より開始された工業団地及び住宅団地造成に伴う発掘調査面積が約4分の3を占める。

18遺跡から主要な遺跡の概要を列記すると以下の通りである。

総社閑泉明神北Ⅱ遺跡、総社甲稲荷塚大道西・(同)Ⅱ遺跡、元総社小見内Ⅲ遺跡は元総社蒼海地区土地区画整理事業に伴う発掘調査であるが、4遺跡合わせて約7,300㎡の調査を実施した結果、縄文時代前期から平安時代までの竪穴住居跡300軒以上、掘立柱建物等が検出された他、特に推定上野国府域と国分尼寺の間に位置する調査区からは11条にのぼる道路状遺構が検出された。

五代南部工業団地造成に伴う発掘調査は、五代伊勢宮Ⅱ遺跡を始めとする5遺跡、合計で約19,000㎡の調査を行い、縄文時代前期から平安時代までの竪穴住居跡の他多数の土坑等が検出された。住居跡、土坑中よりおびただしい数にのぼる縄文中期の土器が出土している。

今年度が最終調査となるローズタウン遺跡群では、富田下大日Ⅲ・Ⅳ遺跡の2遺跡の発掘調査を実施し、総調査面積は約26,000㎡に及んだ。縄文時代前期から平安時代までの竪穴住居跡を始め、中世のお堂と思われる外陣を有する1棟を含め10棟を上回る数の掘立柱建物が検出された。また、下大日Ⅲ遺跡では「富壽神寶」とみられる銭貨が出土した。

荻窪鰯塚・東爪・倉兼遺跡の3遺跡は荻窪地区開発事業に伴う発掘調査であるが、東爪遺跡では縄文時代前期の竪穴住居跡が、鰯塚・倉兼遺跡では奈良～平安時代の住居跡の他22棟にのぼる掘立柱建物が検出された。

さらに、山王若宮Ⅲ遺跡では古墳時代の住居跡の他、中世の基壇状遺構を検出し、総社閑泉明神北Ⅱ遺跡では第1面で中世以降の耕作痕等を、第2面で古墳時代の小区画水田跡92面を検出した。

五代伊勢宮Ⅱ遺跡から出土した縄文土器

平成１３年度　埋蔵文化財発掘調査一覧表

番号	遺跡コード	遺跡名	所在地	調査面積㎡	調査原因	調査期間
1	13A-105	総社甲稲荷塚大道西遺跡（そうじゃこうとうかづかおおみちにしいせき）	総社町総社3109他	465	区画整理事業	平成13.5.15～平成13.11.20
2	13A-112	総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡（そうじゃこうとうかづかおおみちにしにいせき）	総社町総社3055-1他	420	区画整理事業	平成13.9.7～平成13.11.20
3	13A-106	総社閑泉明神北Ⅱ遺跡（そうじゃかんせんみょうじんきたにいせき）	総社町総社3597他	355	区画整理事業	平成13.6.29～平成13.9.6
4	13A-114	元総社小見内Ⅲ遺跡（もとそうじゃおみうちさんいせき	元総社町1829-1他	6,091	区画整理事業	平成13.8.23～平成14.3.1
5	13A-113	総社植野北開土遺跡（そうじゃうえのきたかいといせき）	総社町植野686他	879	道路改良工事	平成13.8.31～平成13.12.7
6	13C-27	五代伊勢宮Ⅱ遺跡（ごだいいせみやにいせき）	五代町989他	6,800	工業団地及び住宅団地造成	平成13.5.18～平成13.12.17
7	13C-28	五代伊勢宮Ⅲ遺跡（ごだいいせみやさんいせき）	五代町1105	1,260	工業団地及び住宅団地造成	平成13.7.26～平成13.10.16
8	13C-31	五代伊勢宮Ⅳ遺跡（ごだいいせみやよんいせき）	五代町1026-1他	2,406	工業団地及び住宅団地造成	平成13.10.26～平成14.1.24
9	13C-30	五代中原Ⅰ遺跡（ごだいなかはらいちいせき）	五代町497他	8,140	工業団地及び住宅団地造成	平成13.9.25～平成14.1.19
10	13C-29	五代深堀Ⅱ遺跡（ごだいふかぼりにいせき）	五代町1225-2他	356	工業団地及び住宅団地造成	平成13.8.1～平成13.10.16
11	13E-47	ﾛｰｽﾞﾀｳﾝ遺跡群富田下大日Ⅲ遺跡（とみだしもだいにちさんいせき）	富田町1824-10他	8,930	住宅団地造成	平成13.5.17～平成13.11.29
12	13D-16	ﾛｰｽﾞﾀｳﾝ遺跡群富田下大日Ⅳ遺跡（とみだしもだいにちよんいせき）	江木町1043-10他	17,400	住宅団地造成	平成13.10.16～平成14.3.8
13	13D-17	荻窪鰯塚遺跡（おぎくぼいわしづかいせき）	荻窪町437-11	2,910	荻窪地区開発整備事業	平成13.6.5～平成13.9.28
14	13D-18	荻窪東爪遺跡（おぎくぼひがしづめいせき）	荻窪町661-1	90	荻窪地区開発整備事業	平成13.5.17～平成13.6.22
15	13D-19	荻窪倉兼遺跡（おぎくぼくらかねいせき）	荻窪町731	2,141	荻窪地区開発整備事業	平成13.9.12～平成13.12.20
16	13G-18	山王若宮Ⅲ遺跡（さんのうわかみやさんいせき）	山王町134他	285	老人保健施設増築工事	平成13.7.10～平成13.8.3
17	13E-48	伊勢山古墳（いせやまこふん）	西大室町623	3,000	墳丘築造当時の墳丘面確認	平成13.12.6～平成14.1.31
18	13A-109	箱田上境遺跡（はこだかみさかいいせき）	箱田町718-1他	27	宅地造成	平成13.10.9～平成13.10.16

平成１３年度　試掘調査一覧表

番号	所在地	開発面積 ㎡	開発原因	調査年月日	調査結果
1	亀里町 349-3	2,816	ドライブイン建設	H13.4.16	遺構は検出されず。
2	江田町字下り柳 170	1,600	宅地造成	H13.4.25	遺構は検出されず。
3	下新田町字町下 543 他	3,683	宅地造成	H13.5.9	遺構は検出されず。
4	大渡町二丁目２番１他	1,650	工場建設	H13.5.15	遺構は検出されず。
5	箱田町 58 他	2,988	宅地造成	H13.5.15	遺構は検出されず。
6	青梨子町字金古境 1706-2 他	500	店舗建設	H13.6.6	遺構は検出されず。
7	箱田町字古市前 577-1 他	462	店舗建設	H13.6.12	遺構は検出されず。
8	山王町 135-1 他	860	老人保健施設建設	H13.6.27	古墳時代の住居跡・中世遺構の基壇を検出。（山王若宮Ⅲ遺跡）
9	下新田町 331	2,995	宅地造成	H13.7.17	遺構は検出されず。
10	広瀬町二丁目 10-4・10-11	240	宅地造成	H13.7.25	遺構は検出されず。
11	文京町四丁目 422-4	129	宅地造成	H13.7.25	遺構は検出されず。
12	北代田町字薬師 698-1	1,750	宅地造成	H13.8.2	遺構は検出されず。
13	田口町 1054-1	2,602	老人ホーム建設	H13.9.4	遺構は検出されず。
14	富田町 2407	210	宅地造成	H13.9.12	遺構は検出されず。
15	総社町総社 2892-4	1,178	倉庫建設	H13.10.24	遺構は検出されず。
16	青柳町字新屋敷 578	1,318	アパート建設	H13.11.2	遺構は検出されず。
17	上新田町字諏訪 1192-1	1,897	宅地造成	H13.11.2	遺構は検出されず。
18	前箱田町字稲荷 278-1	1,904	マンション建設	H13.11.13	遺構は検出されず。
19	元総社町字草作 1320-1	2,338	宅地造成	H13.11.13	遺構は検出されず。
20	下新田町字中沖 248-1 他	777	アパート建設	H13.11.20	平安時代の水田跡を検出。（下新田中沖Ⅲ遺跡）
21	大友町二丁目 2-4	1,065	マンション建設	H13.11.20	遺構は検出されず。
22	富田町字東原 796-1 他	3,594	寺院建設	H13.12.11	遺構は検出されず。
23	総社町総社字給人町屋敷 1182-4	813	診療所建設	H13.12.10	遺構は検出されず。
24	公田町 675-5 他	4,141	店舗建設	H13.12.19	遺構は検出されず。
25	前箱田町字川曲 340	1,896	宅地造成	H13.12.20	遺構は検出されず。
26	西大室町 2377-10 他	3,600	道路改良工事	H13.12.26	遺構は検出されず。
27	公田町 1164-1 他	813	老人福祉施設	H14.1.16	遺構は検出されず。
28	表町二丁目 31-5	410	店舗建設	H14.1.22	遺構は検出されず。
29	大友町二丁目 2-5	1,298	マンション建設	H14.1.24	遺構は検出されず。
30	江木町 770-1	1,259	倉庫建設	H14.2.12	遺構は検出されず。
31	大手町三丁目 13-2	681	庫裡建設	H14.3.7	遺構は検出されず。
32	上泉町 1405-1	2,353	店舗建設	H14.2.14	遺構は検出されず。
33	力丸町 74 他	3,995	工場建設	H14.2.25	遺構は検出されず。
34	六供町 508	518	宅地造成	H14.3.5	古墳時代の住居跡を検出。（六供下堂木Ⅵ遺跡）

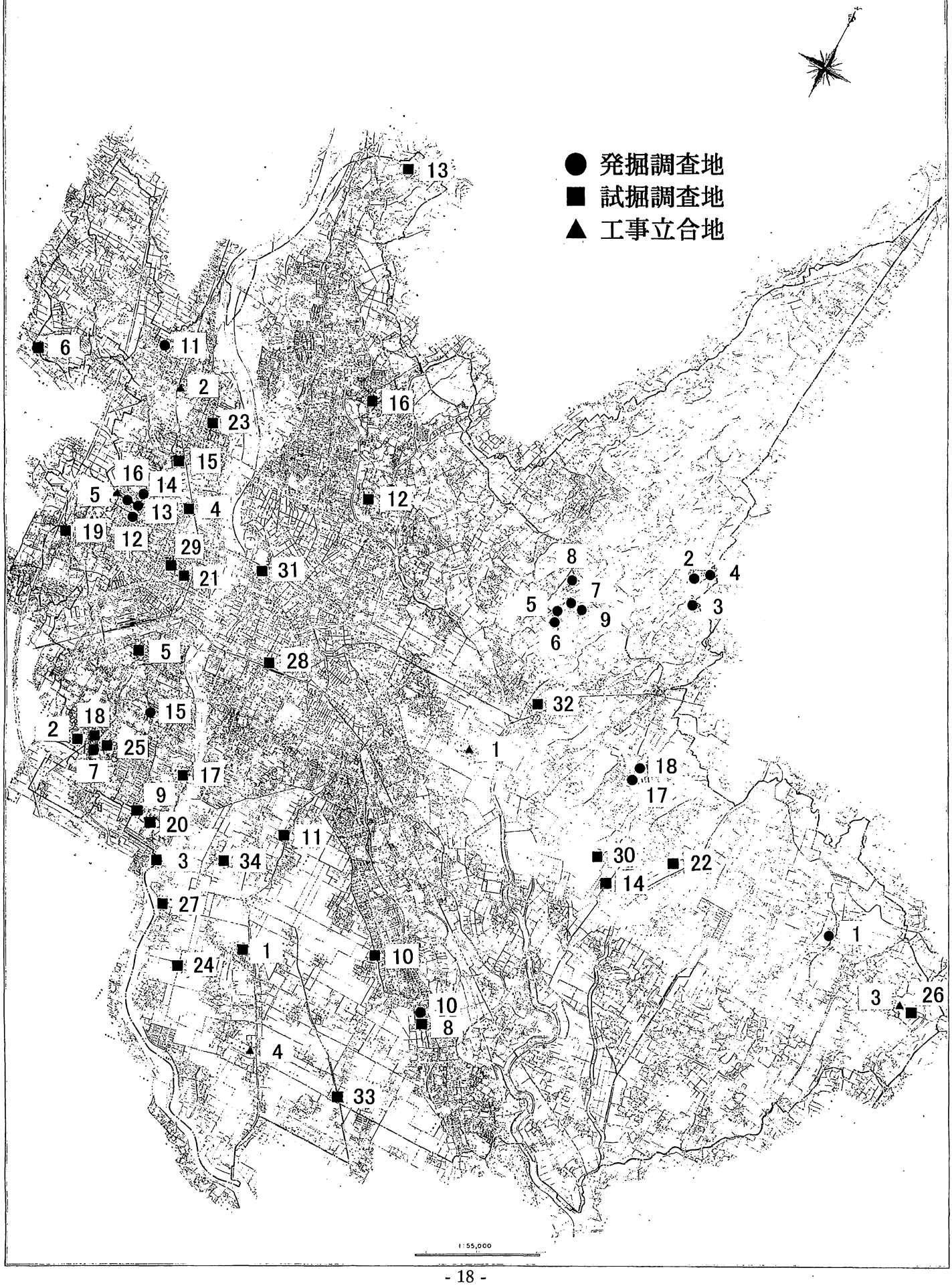
平成１３年度　立会調査一覧表

番号	所在地	開発面積 ㎡	開発原因	調査年月日	調査結果
1	東片貝町 487		下水道築造工事	H13.7.12	遺構は検出されず。
2	総社町植野地内	125.25	下水道築造工事	H13.8.8	遺構は検出されず。
3	西大室町 2402-1 ～ 2410	3,600	道路改良工事	H13.12.12	遺構は検出されず。
4	鶴光路町 260-1	373	道路改良工事	H14.1.28	遺構は検出されず。
5	元総社町 487	16	水管橋架替工事	H14.2.13・2.22	遺構は検出されず。

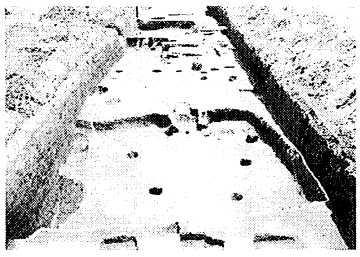
平成１３年度　埋蔵文化財報告書一覧表

番号	報告書名	遺跡名	発行者	発行年月日	備考
1	総社甲稲荷塚大道西遺跡 総社閑泉明神北Ⅱ遺跡 総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡	総社甲稲荷塚大道西遺跡 総社閑泉明神北Ⅱ遺跡 総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	平成 14.3.22	１３年度調査
2	元総社小見内Ⅲ遺跡	元総社小見内Ⅲ遺跡	〃	平成 14.3.22	〃
3	総社北開土遺跡	総社北開土遺跡	〃	平成 14.3.7	〃
4	五代伊勢宮Ⅱ遺跡	五代伊勢宮Ⅱ遺跡	〃	平成 14.3.22	〃
5	五代伊勢宮Ⅲ遺跡・五代伊勢宮Ⅳ遺跡 五代中原Ⅰ遺跡・五代深堀Ⅱ遺跡	五代伊勢宮Ⅲ遺跡・五代伊勢宮Ⅳ遺跡 五代中原Ⅰ遺跡・五代深堀Ⅱ遺跡	〃	平成 14.3.22	〃
6	ローズタウン遺跡群富田下大日Ⅲ遺跡	ローズタウン遺跡群富田下大日Ⅲ遺跡	〃	平成 14.3.22	〃
7	ローズタウン遺跡群富田下大日Ⅳ遺跡	ローズタウン遺跡群富田下大日Ⅳ遺跡	〃	平成 14.3.8	〃
8	荻窪鰯塚遺跡・荻窪東爪遺跡	荻窪鰯塚遺跡・荻窪東爪遺跡	〃	平成 14.3.22	〃
9	山王若宮Ⅲ遺跡	山王若宮Ⅲ遺跡	〃	平成 14.3.22	〃
１０	伊勢山古墳	伊勢山古墳	〃	平成 14.3.22	〃
１１	箱田上境遺跡	箱田上境遺跡	〃	平成 14.3.22	〃
１２	市内遺跡発掘調査報告書	各市内遺跡	前橋市教育委員会	平成 13.7.1	１２年度調査

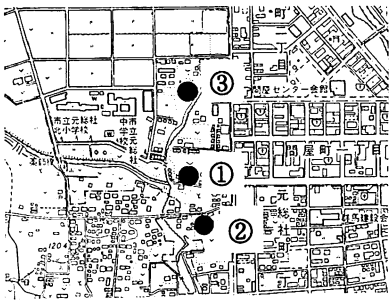
調査地等位置図



1　総社甲稲荷塚大道西遺跡
総社閑泉明神北Ⅱ遺跡
総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡



総社甲稲荷塚大道西遺跡



遺跡位置図（前橋市現形図２万分の１）
①総社甲稲荷塚大道西遺跡
②総社閑泉明神北Ⅱ遺跡
③総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡

事 業 名　土地区画整理事業
所 在 地　前橋市総社町総社
調査期間　平成13年５月14日～11月20日
担 当 者　齊木　一敏・近藤　雅順
調査面積　合計約 1,240 ㎡
調査の経緯　前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出され、これを受けて発掘調査を行った。
調査の概要　今までに国府の推定線には諸説あるが、この３遺跡はどれも推定線の外側にあたり、南北約 425 m、東西約 125 m の範囲内にある。総社甲稲荷塚大道西遺跡Ａ区と総社閑泉明神北Ⅱ遺跡の２遺跡は調査区全体や竪穴住居跡の埋土等に AS-B 軽石を含む川砂が多量に混じる土層があり、10 世紀同時期での住居跡の重複が著しいことから、このころ河川の氾濫がしばしば起こり住居跡が短い期間で立て替えられていることが分かる。また、この３遺跡は住居跡の検出される密度が濃いことには間違いないが、住居跡が一軒検出されると重複して同時期の住居跡が検出されること、検出されないと中世以降の土坑は検出されるが竪穴住居跡が全く検出されないことがある。当時の集落内においても土地利用の規制があり、定められた範囲での立て替えが繰り返された結果とみるのが妥当であろう。

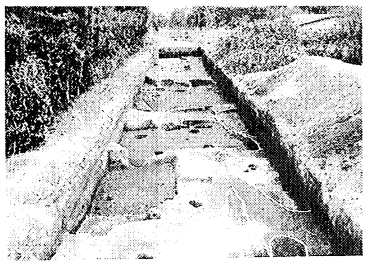
次に、Ⅰ期（～７世紀前半、律令期以前）、Ⅱ期（７世紀後半～ 10 世紀初頭、律令期）、Ⅲ期（10 世紀前半～、律令期以後）の３時期に分けて集落をみてみる。Ⅰ期については、５世紀代の住居跡４軒、６世紀代の住居跡４軒の計８軒が検出された。この時期の住居跡は調査区全体の住居跡の 15 ％と割合が小さい。

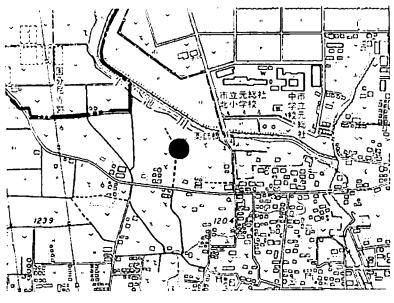
Ⅱ期の住居跡としては、７世紀代の住居跡はなく、８世紀代の住居跡４軒が検出された。この時期の住居跡は全体の 23 ％と、Ⅰ期と比べると割合がやや高くなる。また、住居跡の規模が小型化・画一化してきており、主軸方向も同一方向に集中してくる傾向を見せ画一化されてくる様相がみてとれる。

Ⅲ期の住居跡としては、10 世紀代の住居跡 22 軒、10 世紀終末以降の住居跡 11 軒が検出され、全体の 62 ％とその割合が急激に増加し、３遺跡の最盛期を迎える。住居跡の規模は分散傾向にあり、主軸方向では画一化されている。

今後も続くこの地区の発掘調査により、時期による集落の傾向等が明らかにされていくことだろう。

2　総社小見内Ⅲ遺跡





遺跡位置図（前橋市現形図２万分の１）

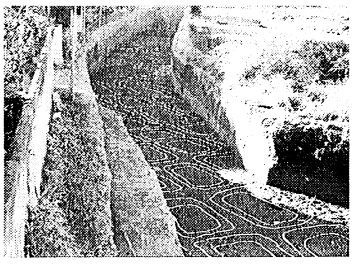
事 業 名　土地区画整理事業
所 在 地　前橋市元総社町及び総社町総社
調査期間　平成 13 年８月 30 日
～平成 14 年３月８日
担 当 者　齊木　一敏・近藤　雅順・小峰　篤（前橋市埋蔵文化財発掘調査団）・長谷川一郎・伊藤　順一・山崎　悟（山武考古学研究所）
調査面積　6,091 ㎡
調査の経緯　前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出され、これを受けて発掘調査を行うこととなった。なお、発掘調査は前橋市埋蔵文化財発掘調査団の立会・指導のもと山武考古学研究所が実施した。
調査の概要　本遺跡は、推定国府域と国分尼寺との間に位置しており、２地域の関連を考える上で重要である。発掘調査で検出された遺構は、竪穴住居跡 217 軒、掘立柱建物跡５棟、竪穴状遺構９基、道路状遺構 11 条、土坑 99 基、土坑墓 15 基、火葬跡７基、溝跡 71 条、井戸跡５基、ピット 396 基である。出土遺物は、縄文時代の土器片（諸磯ｂ式土器）・（加曾利Ｅ式土器）、石器（石鏃・剥片）や弥生時代の土器片（樽式土器）をはじめ、土師器・須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器・布目瓦・風字硯など多種多様である。

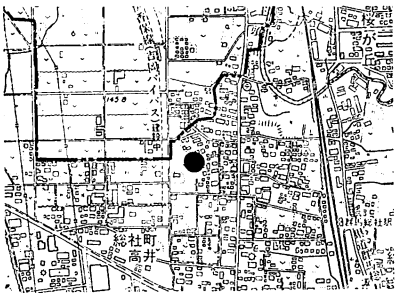
竪穴住居跡は、古墳時代のものを平安時代のものが切っていたりと重複して検出されるものが多い。

道路状遺構には、掘り方が溝状で、埋没土中に複数の硬化面が検出され、溝が埋没する過程で道路として使用されていたと考えられるものがある。この埋没土上層には浅間Ｂ軽石一次堆積層が確認されたことから、同軽石降下以前に道路として機能していたと判断される。

また、道路面に砂礫が敷かれ（この中には土師器・須恵器の細片や布目瓦片が混入）、底部に水酸化鉄・マンガンの凝固が認められるものもある。これは９世紀後半の竪穴住居跡埋没土上面に硬化面が確認されたので、この時期から浅間Ｂ軽石降下以前に機能していたと判断される。さらに、この道路状遺構の両側には溝跡が検出された。一方は浅間Ｂ軽石を含む黒褐色土が堆積し、もう一方は浅間Ｂ軽石一次堆積層によって埋没している。道路状遺構と平行して走行していることから、時期は下るものの何らかの関連が考えられる。

3 総社植野北開土遺跡





遺跡位置図（前橋市現形図２万分の１）

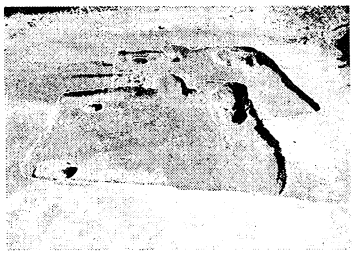
事 業 名　道路改良工事
所 在 地　前橋市総社町植野 656 番地他
調査期間　平成 13 年 8 月 31 日
～平成 14 年 3 月 8 日
担 当 者　鈴木雅浩（前橋市埋蔵文化財発掘調査団）.金子正人・権田友寿（スナガ環境測設株式会社）
調査面積　879.5 ㎡
調査の経緯　道路改良工事に伴い前橋市建設部道路建設課より発掘調査の依頼を受け前橋市埋蔵文化財発掘調査団の指導のもとにスナガ環境測設株式会社が実施した。
立　地　前橋市と吉岡町との行政境に位置し、ＪＲ上越線群馬総社駅から西北西へ約 400 m、東方 1.0 ｋｍ程には利根川が南流している。相馬ヶ原扇状地の扇端付近に立地し、本遺跡の南東約 1.0 ｋｍには国指定史跡である総社二子山古墳などの総社古墳群が存在する。また、周辺は国府域として古代上野における政治・文化の中心であり、国分寺や国分尼寺、山王廃寺なども至近に位置している。
調査の概要　２面調査を実施。第１面の遺構は榛名山二ツ岳が形成された時の噴火に伴い降下した火山灰の二次堆積土層面を確認面とした。検出された遺構は古墳時代以降の溝跡８条、掘立柱建物跡２棟、耕作痕、及び火葬跡と思われる炭化物の集積した遺構等である。

第２面の遺構は、Ｈｒ－ＦＡ直下のＡｓ－Ｃ軽石を含んだ黒色土層を確認面とした。その結果、古墳時代の小区画水田跡を比較的良好な状態で 92 面検出した。地形は北西から南東に傾斜し水田の畦畔は傾斜した地形に沿って延び北東から南西方向の畦畔には水を引き込む目水口と考えられるれ構造が見られた。

遺物は全体的に少なく、石器・土師器・須恵器・陶器片の他、溝底に流れ込みと思われる縄文時代の土器片が検出された。

4 五代伊勢宮Ⅱ遺跡他

①五代伊勢宮Ⅱ遺跡



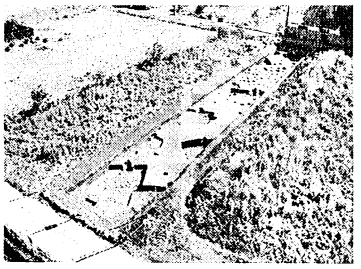
②五代伊勢宮Ⅲ遺跡

事 業 名　五代南部工業団地及び住宅団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査
所 在 地　前橋市五代町地内
調査期間　平成 13 年 5 月 18 日
～平成 14 年 3 月 22 日
担 当 者　髙橋一彦・倉品敦子
調査面積　約 18,962 ㎡
調査の経緯　前橋工業団地造成組合より、五代南部工業団地及び住宅団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。本調査地は、昨年度の試掘調査結果により遺跡地であることが確認されていることから、前橋工業団地造成組合と前橋市埋蔵文化財発掘調査団の間で契約を締結した。

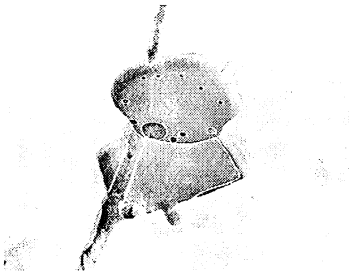
調査が必要な面積が広大であることと、相手方の工期を考慮し、スナガ環境測設株式会社に発掘調査業務委託をし、調査の進捗を図ることとした。五代伊勢宮Ⅱ遺跡（調査面積約 7,800 ㎡）は前橋市埋蔵文化財発掘調査団が直営で調査し、五代伊勢宮Ⅲ遺跡（調査面積約 1,260 ㎡）・五代深堀Ⅱ遺跡（調査面積約 356 ㎡）・五代中原Ⅰ遺跡（調査面積約 8,140 ㎡）・五代伊勢宮Ⅳ（調査面積約 2,406 ㎡）はスナガ環境測設株式会社が調査することとなった。

立　地　五代町は前橋市役所から北東の方向約５㎞に位置する。隣接する芳賀東部団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査により五代町も一部開発されているが、依頼箇所は田畑が残り酪農も盛んであり、住宅はまばらな状況である。土地の高低差が大きく、高いところは宅地、畑、牧草地となっており、低いところは田圃になっている。
調査の概要
五代伊勢宮Ⅱ遺跡　現耕作土より約 35 ㎝の厚さで表土を除去したところで、遺構面を確認した。調査の結果、竪穴住居跡 24 軒、掘立柱建物跡３軒、竪穴状遺構２軒、溝４条、土坑 33 基、柱穴 490 基を検出することができた。しかし、土地改良事業により台地の最も標高が高い部分であった調査区中央が削り取られていた。そのため中央部では遺構が検出されなかったが、幸いその周辺部では遺構を検出することができた。出土遺物からみると、加曽利Ｅ式を中心とする縄文時代中期の土器片や石器から古墳時代・奈良時代の土器片に至るまでの広い時期に渡っている。中でも縄文時代中期の遺物が 8416 点出土している。

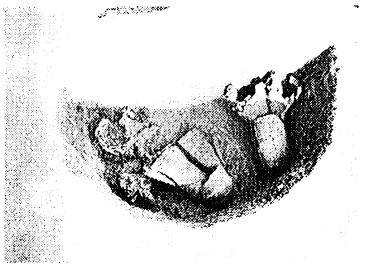
縄文時代の遺構としては、竪穴住居跡 7 軒である。出土遺物は、ほとんどが縄文時



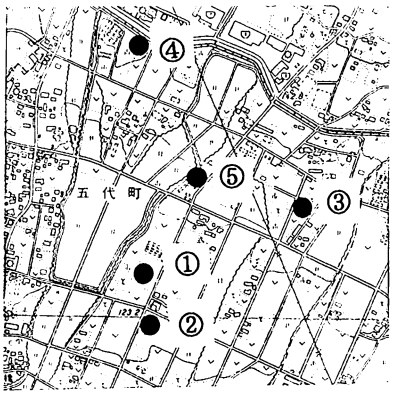
③五代深堀Ⅱ遺跡



④五代中原Ⅰ遺跡



⑤五代伊勢宮Ⅳ遺跡



遺跡位置図（前橋現形図２万分の１）
①五代伊勢宮Ⅱ遺跡
②五代伊勢宮Ⅲ遺跡
③五代深堀Ⅱ遺跡
④五代中原Ⅰ遺跡
⑤五代伊勢宮Ⅳ遺跡

代中期後半の加曽利Ｅ式期のものであり、前期の土器は焼町系、諸磯ｂ・ｃ式土器の小破片が数片と、１軒の住居跡から黒浜式土器が１点確認されたのみである。本遺跡の縄文中期の土器の特徴は、加曽利Ｅ式土器を中心としながら、曽利式土器の流入も見られることである。このことから、この地域に他の土器を使用する集団との交流や移動を想定することができよう。

縄文期に人々が暮らしを営んでいたこの地に、5 世紀中頃になると人々は再び住居を構えるようになり、6 世紀頃には調査区中央を取り囲むように周辺部で生活する人々が現れる。遺構としては、古墳時代中期の住居跡１軒、後期の住居跡９軒、竪穴状遺構２軒を検出することができた。中でも、焼失住居における上屋構造の状況や拡張住居の構造等貴重な資料を得ることができた。

奈良時代になると調査区北側に集落が集中している。遺構としては、竪穴住居跡５軒、掘立柱建物跡３軒を検出することができた。この内、竪穴住居は小型化・均一化傾向を確認することができた。

近世になると、この台地一体の区画を表しているのではないかという溝と館を取り囲む掘の可能性も想定される「V」の字型の二重の溝が検出された。

五代伊勢宮Ⅲ遺跡　検出された遺構は、竪穴住居跡３軒、掘立柱建物跡２軒、竪穴状遺構１軒、土坑 67 基（縄文１）、溝３条、柱穴 80 基、地下式土坑５基、井戸３基、道路跡１である。

西側の台地状部分にある竪穴住居跡は、土地改良による削平で竈のみが残っていた。また一段低い所に位置する二つの竪穴住居跡は、重複した住居で片方の竪穴住居跡跡の一部床面を利用して造り替えられていた。遺物は、土師器甕、坏片、須恵器甕、埦片など平安時代の遺物が検出された。地下式土坑は、大小の方形状の組み合わせで掘り込みが深い。小さい方が入口部分でやや傾斜している。大きい方は、本体部分で平坦な床面が見られる。また、土層断面には、天井部と推測される崩落したローム土層の堆積部分が残っていた。遺物は、古銭や石臼、灯明皿、内耳鍋片などを検出した。

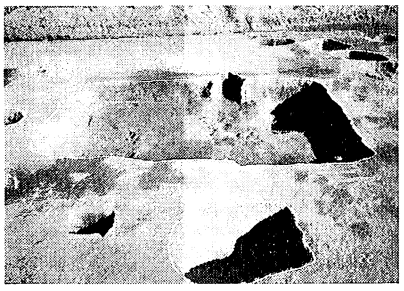
五代深堀Ⅱ遺跡　検出された遺構は、竪穴住居跡 10 軒（縄文１、古墳２、奈良・平安７）、土坑 15 基（縄文２）、溝１条、柱穴 57 基である。

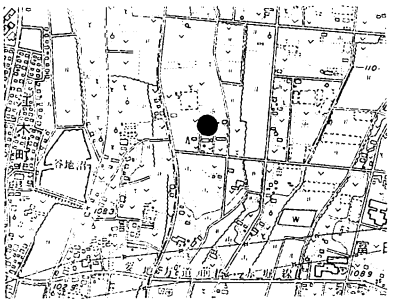
縄文時代中期後半の竪穴住居跡は、埋設土器を２箇所から検出している。そのうちの１つは炉跡の可能性が高い。土師器を伴う竪穴住居跡９軒のうち、７軒竈を確認することができた。出土遺物等から古墳時代後半から奈良・平安時代と考えられる。縄文時代の土坑からは加曽利Ｅ式土器が出土している。

五代中原Ⅰ遺跡　調査区西側は、土地改良でローム面まで削り取られた部分や後世の攪乱で竪穴住居跡が削り取られている部分があった。また、調査区の中央付近から南東方向への緩やかな傾斜面で遺構を確認した。検出された遺構は、竪穴住居跡 27 軒、掘立柱建物跡４軒、竪穴状遺構２軒、土坑６基（縄文１）、溝１条、柱穴 43 基である。そのうち、縄文時代の竪穴住居跡３軒の平面形態は、方形や楕円形を呈していて、大きさは最小径 4.3 mから最大径 6.6 m程であった。住居中央付近やや壁寄りには石を使用した炉跡も検出された。また、大形の住居では、石を使用していない地床炉跡や炉跡の傍らに埋設土器を配したものも検出された。出土遺物等（諸磯ｂ、ｃの土器片）から縄文時代前期と考えられる。また、古墳時代の住居跡３軒検出した。一つの竪穴住居跡からは、炉跡に石が１個残り、燃焼部に焼土の分布が見られ、楕円状の窪みも検出した。更に、平安時代の竪穴住居跡 15 軒を検出した。住居の形状は南北方向にやや長く、竈を東壁側に造りだしている。遺物としては、土師器平底気味の坏や「コ」の字状口縁を持った甕片、須恵器高台椀、糸切痕が残る坏片などを検出した。

五代伊勢宮Ⅳ遺跡　検出された遺構は、竪穴住居跡４軒、土坑 229 基、溝跡６条、柱穴 60 基、集石遺構３、道路跡１である。そのうち３軒の住居跡と 194 基の土坑は縄文時代の遺構である。中でも、径 6.5 m程の円形を呈する大型な竪穴住居跡の東側半分を検出した。炉の形態は地床炉で、柱穴は 17 基確認された。長径５m程の楕円形を呈する中型の竪穴住居跡で、柱穴を４基確認したが、炉跡は認められないものもあった。石囲い炉を伴う竪穴住居跡も検出した。27 基の土坑は袋状を呈するものであった。出土遺物は、完形に近い土器、多量の土器片、石柱または人頭大の石を有するもの、礫が面的に見られるもの等がある。出土遺物等から縄文中期の遺構であることが判明した。土器の文様などから南関東はもとより東北地方から中部・北陸地方に及ぶ様々な系統を受けていることが確認できる。更に、遺構の分布からは、環状集落とその内側に占地する土坑群という、群馬県内における縄文時代中期の集落形態の一般的な様相をみてとることができる。

5 ﾛｰｽﾞﾀｳﾝ遺跡群富田下大日Ⅲ遺跡





遺跡位置図（前橋現形図２万分の１）

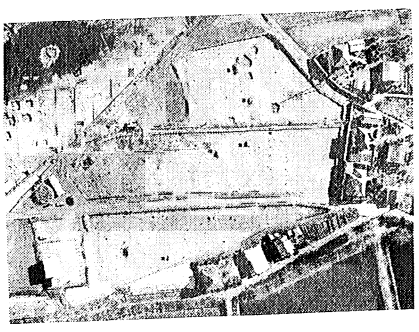
事 業 名　ローズタウン住宅団地造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
所 在 地　前橋市富田町 1824 番地 10 他
調査期間　平成13年 5月17日～11月29日
担 当 者　平野岳志・渡邉三男・島 武臣
調査面積　8,930 ㎡
調査の経緯　ローズタウン住宅団地造成事業に先立ち前橋工業団地造成組合(工業課)から事業予定地の埋蔵文化財調査の依頼があり、遺跡の記録保存を目的に調査を実施した。昨年度に引き続く調査である。

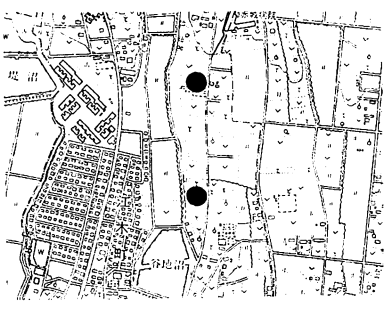
調査区は県道前橋・赤堀線江木町交差点から北東に 600 mほどに位置し、A区・B区の２調査区に分かれる。ここは、団地造成のために土壌を削り取る部分である。調査は厚さ約１mの表土を掘削用重機で除去して、遺構を確認した後、遺構を掘り下げ精査した。

調査の概要　A区からは縄文時代の住居跡４軒、掘建柱建物跡１棟、土坑 24 基を確認した。住居跡は縄文時代前期の遺構と推定され、黒浜式の深鉢や石器・石製品を共伴していた。掘建柱建物跡は、縦横５本ずつの側柱列（外陣）の中に縦横３本の側柱列（内陣）をもっていた。柱穴の並び方から中世のお堂跡ではないかと思われた。24 基の土坑のうち、２基は墓坑に用いられたと考えられる形状を呈していた。また、４基には、底部に木杭を立てたと思われる穴があり、狩猟用の落穴と思われた。

B区では上部を削平された古墳１基、縄文時代の住居跡１軒、竈をもつ住居跡 10 軒、竪穴状遺構１軒、掘建柱建物遺構 11 棟、土坑 110 基、柱穴 74 基を確認した。縄文時代の住居跡は縄文時代中期に存続したと見られ、阿玉台式土器を共伴していた。竈をもつ住居は、どれも東壁に竈が造りつけられたいた。共伴する土器から、９～10 世紀代にかけて存続した住居と考えられる。中でも、H－３号住居跡では、西暦 818 年から 834 年にかけて鋳造された「富壽神寶」とみられる銭貨が出土した。この住居では、他にも鉄製品や鉄滓が多数見つかっており、集落でも有力者の住まいであったことを窺わせた。表土除去の際確認できた古墳の周溝は、B区東斜面中央部に位置していた。古墳主体部と周溝の上部は、土地改良等により既に削平されていて現存していなかった。調査の最終段階で、B区西斜面に旧石器文化層確認のための試掘坑を設定し、浅間板鼻褐色テフラ群混入層まで掘下げたが、遺物確認はできなかった。

6 ﾛｰｽﾞﾀｳﾝ遺跡群富田下大日Ⅳ遺跡





遺跡位置図（前橋現形図２万分の１）

事 業 名　ローズタウン住宅団地造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
所 在 地　前橋市江木町 1043 番地 10 他
調査期間　平成 13 年 10 月 16 日
～平成 14 年３月８日
担 当 者　平野岳志・渡邉三男・島 武臣
（前橋市埋蔵文化財発掘調査団）
山崎　悟（山武考古学研究所）
調査面積　17,400 ㎡
調査の経緯　ローズタウン住宅団地造成事業に先立ち、遺跡の記録保存を目的に前橋工業団地造成組合（工業課）より住宅団地造成予定地の埋蔵文化財調査の依頼があった。調査依頼は、前橋市教育委員会を通して前橋市埋蔵文化財発掘調査団が受託したが、調査の都合上、山武考古学研究所に業務を委託した。

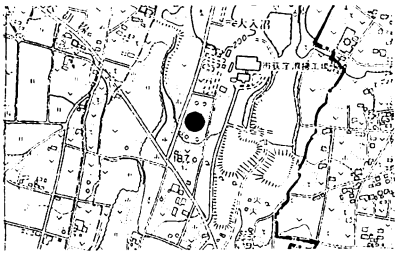
調査区は上毛電鉄江木駅の南南東 1.1 ～ 1.5km ほどに、北側と南側に離れて位置する。調査は遺構確認面までの土壌を掘削用重機にて除去した後に、遺構の掘り下げ及び精査を行った。また、旧石器時代の文化層確認のため、任意に 2m × 2m の試掘坑を設定して調査を行った。

調査の概要　旧石器の試掘調査は浅間板鼻褐色テフラ混入群層下位まで掘下げたが、遺物は検出されなかった。縄文時代の住居跡は、前期・諸磯ｃ式期の土器を共伴するものが多く、南地区の南東部に４軒が弧状に分布していた。このうち、J－１号住居跡からは、埋設土器が検出された。

奈良・平安時代の住居跡は北地区・南地区あわせて６軒を調査しているが、非常に散在的な分布状況である。このうち、H－５号住居跡からは９世紀代の土師器台付甕とともに、鉄製の鋤先がほぼ完存状態で出土した。また、H－２号住居跡は北側に張出部をもつ特異な形態であった。床面は全体がほぼ平坦な状態にあり、埋没土層の観察からも他住居との重複は認められなかった。

このほか、掘建柱建物遺構１棟、溝跡１条、土坑６７基、ピット数十基を確認した。また、打製石斧・石鏃・スクレーパーなどの石器類、前期や中期と推定される縄文土器片、土師器、須恵器などの遺物を多数収納した。

7　荻窪鰯塚遺跡

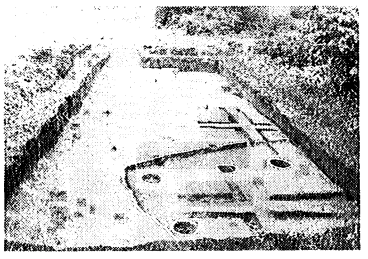


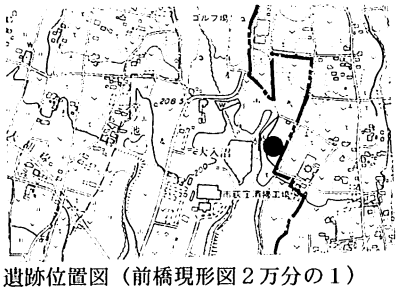
遺跡位置図（前橋現形図２万分の１）

事 業 名　荻窪地区開発整備事業
所 在 地　前橋市荻窪町 437-11
調査期間　平成13年６月５日～９月28日
担 当 者　小峰　篤・横澤　真一
調査面積　2,910 ㎡
調査の経緯　市荻窪地区整備推進室より荻窪地区開発整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査依頼が提出された。本遺跡及び荻窪東爪遺跡に関しては、平成１２年度中に行った試掘調査で、遺構が確認された箇所である。また、荻窪倉兼遺跡については、上記２遺跡を調査中に行った試掘調査で遺構が確認されたため、本調査に至った次第である。本発掘調査に係る委託契約は、平成１３年４月２４日付けで締結し、実施に至る。
立　地　前橋市街地の北東約７㎞、赤城南麓に位置する。標高は約１９４ｍで僅かに南へ傾斜する。調査区北東には、市営荻窪清掃工場がある。
調査の概要　本遺跡では、７世紀後半から９世紀にかけての集落跡が検出された。内訳は、住居跡が１０軒、掘立柱建物跡が１０棟である。遺構の残存状況は概ね良好で出土遺物もバラエティに富んでおり、５号住居跡から「林」と墨書された坏が２点、また、表採遺物の中に「部」の墨書がある坏も見つかっている。

検出した掘立柱建物跡の中に、「布堀」という特殊な構築技法を用いて造られた建物を１棟確認した。この技法は、建物をより強固なものにするための工夫で一般的な掘立柱建物と比べて重要度の高い建物であったと思われる。

8　荻窪東爪遺跡

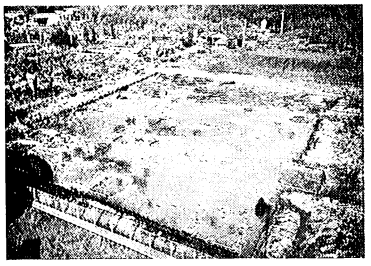


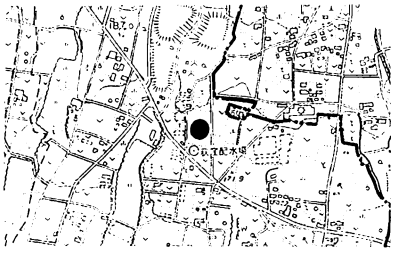


遺跡位置図（前橋現形図２万分の１）

事 業 名　荻窪地区開発整備事業
所 在 地　前橋市荻窪町 661-1
調査期間　平成13年　5月17日～６月22日
担 当 者　小峰　篤・横澤　真一
調査面積　90 ㎡
調査の経緯　荻窪地区開発整備事業区域内において新設される道路建設に伴って発掘調査が実施された。
立　地　前橋市北東部、赤城南麓の緩斜面上に位置する。南西約５００ｍには荻窪鰯塚遺跡が所在する。また、本遺跡地は東数十メートルで勢多郡大胡町と境を接している。遺跡地は畑地であり、周辺は畑地に加え桑畑や果樹園などが展開している。
調査の概要　発掘調査面積が、９０㎡と小規模だったこと、それに加え調査区の約半分ほどが後世の耕作などの理由によって攪乱されていたことなどから、検出した遺構は縄文時代の住居跡が２軒であった。２軒とも調査区壁際で検出され、部分的な発掘となったためその全容を見ることは出来なかった。出土遺物も多くなかったが縄文土器片が大部分を占めた。その文様から、「黒浜式」と思われ時期的には縄文時代前期に属すると考えられる。周辺遺跡に目をやると本遺跡の西に所在する川白田遺跡で同年代の集落跡が確認されている。これに対し本遺跡地では２軒の住居跡しか検出されてなくこれより東では試掘調査において遺構が検出されていないことから、本遺跡一帯で集落を形成していたとは考えにくく、前述した川白田遺跡で検出した集落の東端に位置する住居跡と推定される。

9　荻窪倉兼遺跡





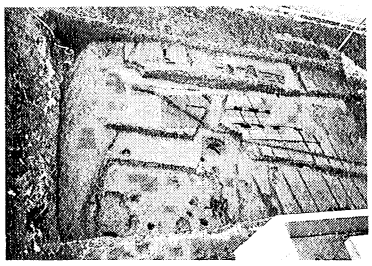
遺跡位置図（前橋現形図２万分の１）

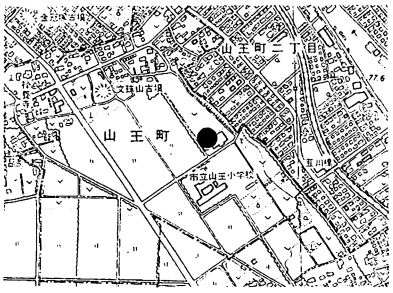
事 業 名　荻窪地区開発整備事業
所 在 地　前橋市荻窪町 731
調査期間　平成13年　9月12日～12月20日
担 当 者　小峰　篤・横澤　真一
調査面積　2,141 ㎡
調査の経緯　荻窪地区開発整備事業区域内でのため池建設に伴って発掘調査が実施された。
立　地　前橋市北東部の赤城南麓に位置する。遺跡地は、県道渋川大胡線沿いに所在する前橋市水道局施設荻窪配水場の北側となる。緩やかに南へ傾斜している。現況は主として牧草地である。
調査の概要　本遺跡地では、奈良から平安時代にかけての集落跡が検出された。遺構数は、住居跡が２９軒、掘立柱建物跡が１２棟である。各遺構の残存状況は、調査区中央部がやや悪いものの、概ね良好であった。殆ど全ての住居跡で竈を確認できた。煙道が検出できたものも数カ所ある。特に、２６号住居跡では石で組まれた竈が明瞭に検出された。出土遺物は多く、土師器・須恵器の坏や甕、椀などがその中心を占めるが、中には灰釉陶器やミニチュア土器、「吉」と墨書された椀などと器種も多岐にわたる。

掘立柱建物跡は大半が、調査区の南半分に集中して検出された。同規模の建物が南北に連棟で建てられたり、同一場所で立て替えられた痕跡も見受けられる。

本遺跡の調査結果を総合的に判断すると、古くは奈良時代末頃から羽釜を伴う１０世紀末頃までその間継続して人々の生活が営まれていたことが窺える。

10 山王若宮Ⅲ遺跡





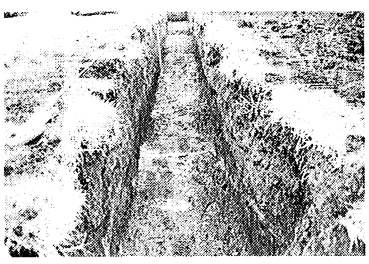
遺跡位置図（前橋現形図２万分の１）

事業名　老人保健施設増築工事
所在地　前橋市山王町 134 他
調査期間　平成 13 年７月 10 日～８月３日
担当者　齊木　一敏・近藤　雅順
調査面積　約 285 ㎡
調査の経緯　平成 13 年６月、老人保健施設増築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。本調査地は、平成９年度・12 年度に本施設の建設及び増築工事にあたり発掘調査を実施した個所に隣接しており、遺跡地であることが予想され、試掘調査を経て、発掘調査を実施した。
調査の概要　本遺跡では、主に古墳時代、平安時代、中世の遺構と遺物が検出された。古墳時代の遺構としては、４世紀終末と考えられる住居跡１軒、５世紀前半と考えられる住居跡が１軒、５世紀終末から６世紀初頭と考えられる住居跡が４軒の計６軒が確認された。

この地は旧利根川沿いの前橋台地東端の自然堤防上の微高地で、ここを南端とし帯状に北北西の方向にのびていく。そして、広瀬古墳群もこの帯と一致してくる。４世紀代の住居跡と一致する古墳は、北北西約 2.5 ㎞の八幡山古墳、前橋天神山古墳を中心とする古墳群である。この古墳群を中心に、その周辺に４世紀代の集落が形成され次第に拡大し、６世紀の頃には今回の調査区でも濃密な分布をみせるものと考える。また、調査が行われていないため想像の域ではあるが、本調査区から南に約２㎞離れた同じような低地に古墳時代の水田跡が検出されていることから、集落の周辺の低地にもこの時期の水田跡があるのではないかと考える。今後の調査が待たれるところである。この地域の４世紀代の生活域と墓域と生産域が推測できるのかもしれない。

中世の遺構は、AS-B 軽石純層をつき固めた様な中世の基壇状遺構が確認された。この基壇状遺構は方形（一辺が三尺、90 ㎝）の井桁上の溝状遺構が規則正しく掘り込まれていた。当初、溝状遺構が十字に交差する箇所に柱穴があり、その柱を固定し床を張るためにその溝に枕木を埋め込んだのではないかと考えた。調査の結果、交差した箇所では柱穴は確認できず、はずれたところで柱穴を１基確認するにとどまった。よって、この基壇状遺構の上に掘立柱建物が立っていたことは立証できなかった。しかし、生活上の遺構であることは確かであり、この地における人々の生活の跡が中世まで広がった意義は大きい。

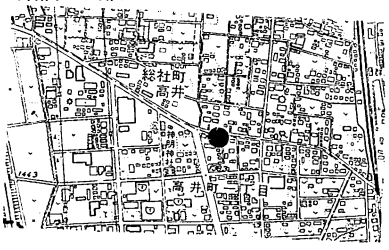
11 市内遺跡発掘調査



山王若宮Ⅲ遺跡

事業名　埋蔵文化財発掘調査事業（市内遺跡発掘調査事業）
所在地　前橋市内
調査期間　平成 13 年４月２日
～平成 14 年３月 30 日
担当者　高山　剛・鈴木雅浩
調査面積　1,815 ㎡
調査の概要　平成 13 年度は 34 件の確認調査を実施した。そのうち３カ所で遺跡が確認された。３遺跡のうち１遺跡は現状保存が不可能のため 13 年度中に発掘調査を実施し、記録保存を行った。２遺跡は保存協議を締結し、現状保存された。
調査の成果　山王町で行った試掘調査では古墳時代の住居跡が検出された。（山王若宮Ⅲ遺跡）下新田町で行われた試掘調査では平安時代の水田跡が検出された。（下新田中沖Ⅲ遺跡）六供町で行われた試掘調査では古墳時代の住居跡が検出された。（六供下堂木Ⅳ遺跡）
発掘調査　山王若宮Ⅲ遺跡は平成 13 年度に前橋市埋蔵文化財発掘調査団で発掘調査が行われた。
保存協議　下新田中沖Ⅲ遺跡、六供下堂木Ⅳ遺跡は遺跡保護層が確保され、現状保存されることになった。

12 県調査会調査



遺跡位置図（前橋現形図２万分の１）

前橋市内の開発に伴う文化財発掘調査で、県教育委員会を事務局として調査会を設立し、市教育委員会も役員として参加しているもの。発掘調査は民間調査機関に委託している。平成 13 年度は以下の通りである。

遺跡名　前橋市高井桃の木Ⅱ遺跡
所在地　前橋市総社町
調査原因　元景寺南線道路改築事業
調査期間　平成 13 年８月９日
～10 月 31 日
担当者　元景寺南線遺跡調査会大越直樹
調査の成果　古墳時代から平安時代にかけての住居跡、竪穴状遺構等が検出された。

6 遺跡台帳整備事業

事 業 名　　遺跡台帳整備事業
事業期間　　平成13年4月1日～14年3月31日
担 当 者　　鈴木雅浩

(1)遺跡台帳整備

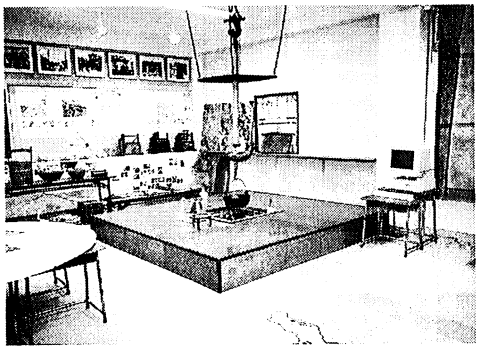
年間を通じて市内での発掘調査や各種確認調査の資料を整備し、それを元にして遺跡の資料を台帳化している。その資料を各種開発の対応に使用している。

(2)資料整備

出土した土器などの遺物資料の整理で、山王廃寺等V遺物出土の瓦類の実測・拓本をとった。また、芳賀北部団地遺跡出土の土器で活用可能なものの復元を行った。

(3)小中学校資料活用支援

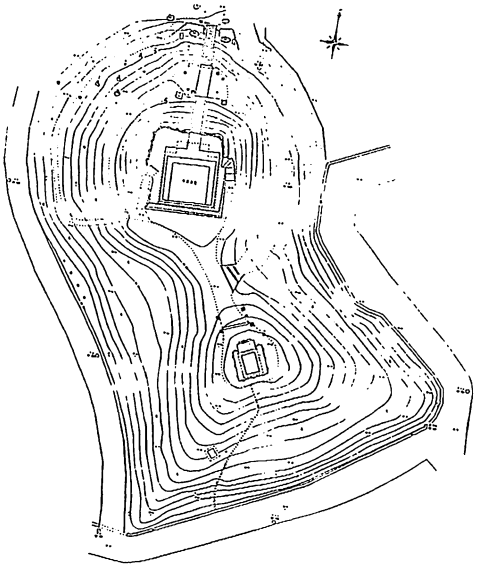
学校への資料貸出しを、天川小学校・下川淵小学校・桃瀬小学校・敷島小学校・荒子小学校・二之宮小学校の六校に行った。資料展示支援としては、全国小学校社会科研究会大会に伴って資料整備と展示を行った。14年度以降も継続する予定で準備している。



敷島小学校「社会科資料室」展示の様子

(4)遺跡測量

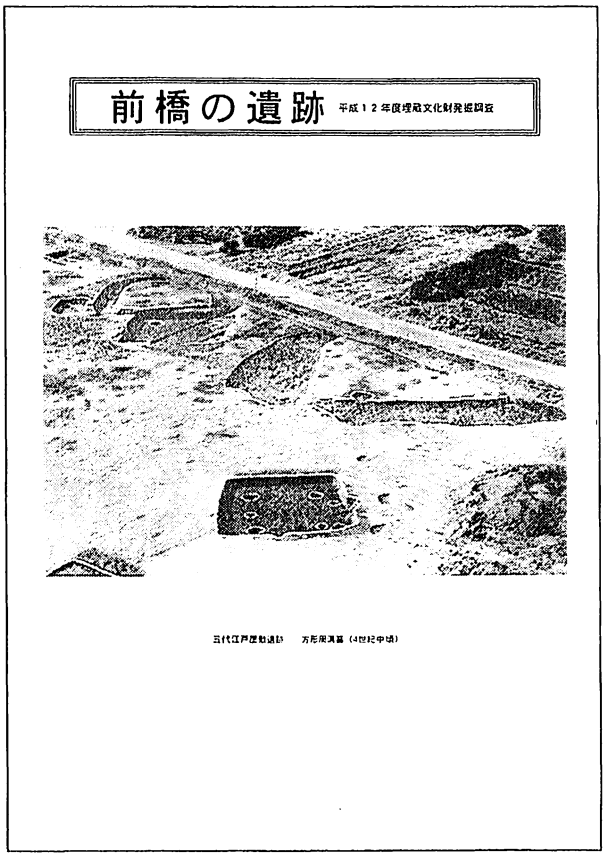
重要史跡等の測量を行っている。13年度は、5世紀中頃に造られた前方後円墳で、市指定史跡である今井町の今井神社古墳の測量を行った。



今井神社古墳実測図

(5)普及パンフレットの作成

平成12年度発掘調査の成果を市民向けにまとめたパンフレット「前橋の遺跡」を作成し、配布した。12年度は、五代江戸屋敷遺跡の方形周溝墓を中心に10遺跡の概要をまとめて作成した。



「前橋の遺跡」パンフレット

(6)遺物の公開・展示

平成12年度の発掘調査で出土した各遺跡の土器・石器・瓦類を、文化財保護課1階の正面玄関入口のガラスケースに解説展示を行った。

(7)山王廃寺跡出土遺物保存処理

平成12年度から14年度までの3カ年で国・県補助金による保存処理事業が採択となり、昨年度に引き続き13年度も塑像片を中心に137点の遺物保存処理を元興寺文化財研究所に委託した。なお、保存処理が終了した遺物については、現在、総合教育プラザの収蔵庫に保管されている。

(8)山王廃寺等調査委員会

平成12年度に「山王廃寺等（山王廃寺と密接な関連をもつ周辺の遺跡）を調査し、保全と整備に万全を期するため、山王廃寺等調査委員会を設立する。」このような趣旨で設立された山王廃寺等調査委員会は、外部専門委員6名のほか幹事6名、指導2名、顧問1名で構成されている。事務局は文化財保護課に置いている。本年度の委員会は、平成13年11月30日（金）に開催し、山王廃寺及び関連遺跡の資料を配付し、今までの調査成果からみた遺跡の評価及び遺跡を取り巻く問題点についての協議を行った。

7 大室公園史跡整備事業

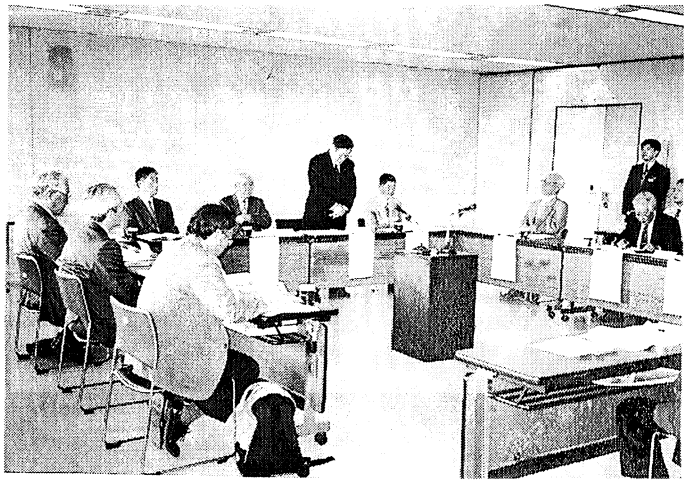
(1)大室公園史跡整備委員会

大室公園史跡整備事業の推進にあたり、学識経験者及び関係職員で組織された、大室公園史跡整備委員会（平成元年度発足）において、整備計画及び整備内容の検討を十分に行いながら事業を実施している。

また、事業を①国史跡大室４古墳（前・中・後・小二子古墳）の保存整備、②赤城型民家と古代住居の整備、③大室古墳資料館の建設の３つの事業に大別し、その上で、より専門的・実務的に事業を担当する専門部会（古墳整備部会、民家変遷部会、資料館部会）を組織し、部会開催及び連絡調整を図りながら具体的事業内容の検討にあたってきた。

○平成13年度大室公園史跡整備委員会の経緯

平 13. 7. 9 …国立歴史民俗博物館教授白石太一郎氏への平成 13 年度事業計画説明
7. 13 …文化庁への平成 13 年度事業計画説明
10. 4 …第 36 回全国史跡整備市町村協議会前橋大会における視察
平 14. 2. 4 …大室公園史跡整備委員会第 11 回部会長会議開催
2. 6 …文化庁への平成 14 年度以降の事業内容説明
2. 22 …平成 13 年度大室公園史跡整備委員会開催（通算 16 回目）



大室史跡整備委員会の様子

(2)古墳整備部会

国指定史跡大室４古墳の整備に関しては、平成９年度の後二子古墳から、国庫補助事業として整備工事を行ってきた。５年目にあたる今年度は、前二子古墳と小二子古墳の保存整備工事ならびに遺跡全体模型の作成・設置を行った。

前二子古墳については、今後保存修理を予定している石室とその周辺部分を除いた部分の整備工事を行い完了した。

小二子古墳については全面復元ということで、墳丘の成形を行った上で埴輪や土器のレプリカを設置し、整備工事は完了した。

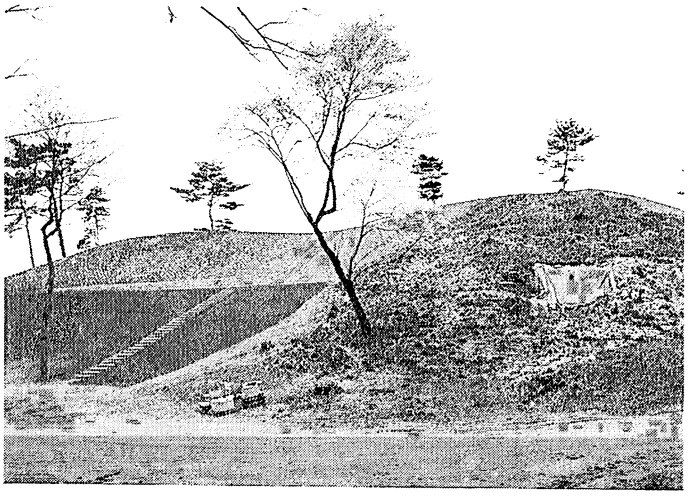
また、中二子古墳と後二子古墳の間には、大室古墳群全体の地形や配置を見学者に理解してもらうために天然石の削り出しによって当時の様子を表現した、遺跡全体模型を作成し設置した。

○前二子古墳整備工事概要

【墳丘整備】
・石室周辺部を除く、後円部南側の表土すき取り・遺構保護盛土・成形後上段部笹植栽、下段部種子混合客土による吹付植栽
・見学用階段の設置
・墳頂部園路バーク舗装

【周辺整備】
・中・低木修景植栽

【説明施設】
・図解施設、解説施設の設置



前二子古墳整備状況

○小二子古墳整備工事概要

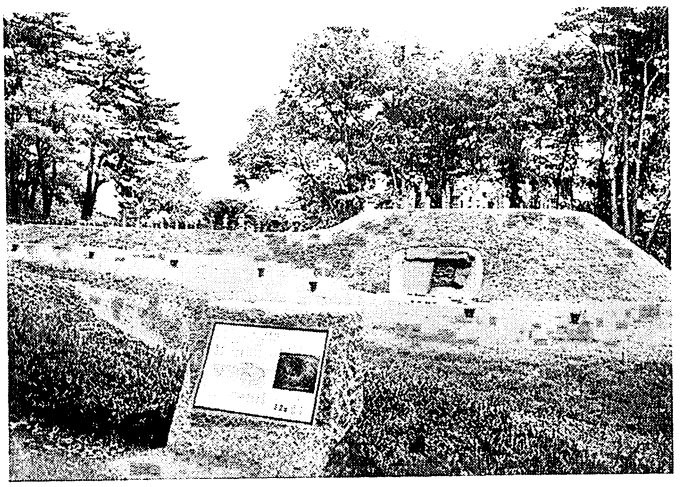
【墳丘整備】
・墳丘の樹木の伐採
・表土すき取り・遺構保護盛土・成形後、芝張
・埴輪・土器のレプリカ展示

【石室整備】
・石室閉塞状況の露出展示
・閉塞石の一部及び天井石の補足
・石積み亀裂充填
・閉塞石・天井石の石材表面保存処理
・石室閉塞部粘土被覆状況の復元
・石室内部埋め戻し

【周堀整備】
・周堀内の樹木の伐採
・堀に溜まった土砂すき取り、成形
・堀底にバーク敷設
・法面芝張

【周辺整備】
・人止め用低木・地被植栽
・園路の土質舗装及びバーク舗装
・管理用木戸の設置

【説明施設】
・解説施設の設置

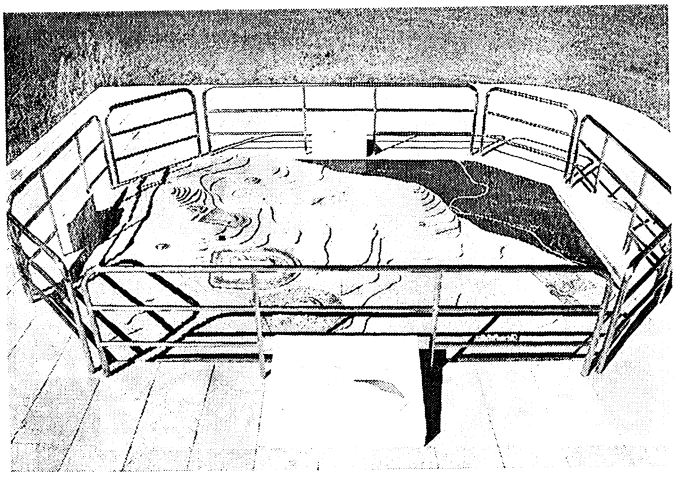


小二子古墳整備状況（全景）

小二子古墳整備状況（埴輪）

○遺跡全体模型作成・設置概要

【製作内容】　・古墳及び古墳群周辺の地形
　　・調査結果に基づく集落
　　・水田耕作されたと考えられる低地
　　・解説施設



遺跡全体模型

○平成 13 年度古墳整備部会の経緯

平 13. 9. 11…第 1 回部会開催
　　12. 11…第 2 回部会開催
平 14. 1. 29…第 3 回部会開催

(3) 資料館部会

大室古墳資料館（仮称）建設に向けて、これまでに完了している展示に関する基本設計に引き続き、大室公園史跡整備事業事務局を中心に、今後予定されている展示実施設計、及び資料館家屋の基本設計に向けての準備作業を実施した。

さらに、大室 4 古墳発掘調査、及び大室公園整備地内の施設建設に先行する発掘調査（内堀遺跡群発掘調査）等によって得られた膨大な出土遺物資料の未整理分について、将来、資料館への収蔵を予定し、平成 9 年度より開始した整理作業を継続して行った。

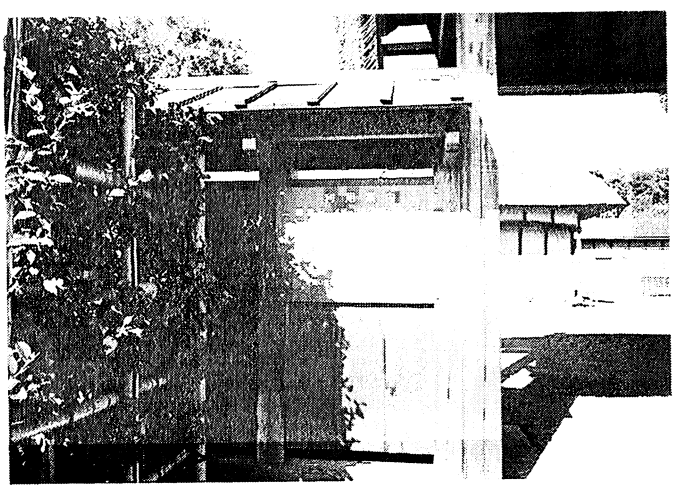
(4) 赤城型民家園運営

○民家園運営

平成 13 年度の民家園の見学者数は昨年よりも増加し、記帳者だけでも約 6,600 名を数えた。これは、古墳の整備が進むとともに、民家園に訪れる人も多くなったためと思われる。

見学者の内訳を見てみると、児童生徒の割合が最も多く、市内の小中学校に加えて市外の学校からの見学もかなりの数にのぼった。

本年度、民家園の保存整備として、屋根の補修や利用案内板の設置を行った。また、運営活動状況としては、昨年同様南に広がる畑を利用して、地元の大室小学校児童と民家保存会の会員とでサツマイモを植え、その収穫をともにしたり、児童が育てたサルビアの苗を植えたりするなど、民家園が開園して 5 年目になるが、地域に根ざした活動が確実に定着してきている。



表門に設置された利用案内板

あ と が き

前橋市は、「古墳のまち」ともいわれ、古墳文化の栄えた地であり、現在でも優れた古墳が残されています。大室公園内にある国指定史跡になっている古墳の復元整備は進み、その偉容をみることができるようになり、古墳文化の一端を肌で感じられるようになりました。

これら古墳文化を築いた祖先に対し、尊敬の念をいだくとともに、強い誇りを感じずにはいられません。わたしたちも自らが文化の担い手であることを認識し、一人一人が文化を大切にし、文化の創造に主体的に係わる姿勢を持つことが求められているのではないでしょうか。

平成 13 年度も文化財保護行政を通して、文化の向上・発展の一助となるよう努めてまいりました。その概要をまとめた本書が多くの方々に読まれることを願っています。

文化財保護課長　髙橋　正男

平成１３年度
前橋市文化財調査委員
阿久津 宗 二
梅 澤　重 昭
近 藤　義 雄
松 島　榮 治
安 盛　　博

平成１３年度文化財調査報告書
平成１４年９月発行
発行　前橋市教育委員会文化財保護課
前橋市三俣町２－１０－２

平成１３年度
文化財保護課職員

文化財保護課長	石川　克博
○文化財保護係	
文化財保護課長補佐	伊藤　茂男
主　査	丸山　正家
〃	大澤　雅之
〃	横山　浩之
主　任	古屋　秀登
〃	高橋　　亨
〃	小嶋　　尚
〃	小暮　啓介
○埋蔵文化財係	
埋蔵文化財係長	真塩　欣一
主　査	渡邉　三男
〃	羽鳥　三郎
主　任	鈴木　雅浩
〃	平野　岳志
〃	齊木　一敏
〃	飯田　祐二
〃	高橋　一彦
〃	近藤　雅順
主　事	高山　　剛
〃	小峰　　篤
〃	倉品　敦子
文化財整備指導員（嘱託）	井上　唯雄
嘱託員	島　　武臣
〃	横澤　真一

表紙　国指定史跡　小二子古墳

R100
古紙配合率100%再生紙を使用しています